

2020年度 文部科学省委託事業
教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

テーマ6

民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上
成果報告書

国立大学法人京都教育大学

2020 年度「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」

テーマ 6 :民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上

1. はじめに

・事業概要

主題:教員の資質能力を高め、創造性豊かな働き方を提案する e ラーニングの開発と実践概要

教育現場では、情報化の遅れや業務の効率化による働き方改革の必要性など解決すべき社会的課題がある。次世代の人材を育成する教員が、必要な資質能力を高めるため、京都教育大学附属桃山小学校(以下「実施校」という。)が保有する教育の情報化や創造的な働き方の知見とグーグル合同会社が民間企業に提供してきた効率的で創造的な働き方を育てる研修の知見を連携させ、e ラーニングを活用し、教員研修の開発、実践検証を行なった。

・学校としての研究実践歴

①「先生を"究める"Web 講義」

現職教員対象の e ラーニングコンテンツ集を制作した。

協力:京都府総合教育センター、京都市総合教育センター、独立行政法人教職員支援機構

②「我が国の伝統や文化に関する教育の充実に係る調査研究」

平成 27 年度～令和元年度まで文部科学省より委託され、伝統文化に関わる授業実践の充実のために、教員研修プログラムを開発し、ワークショップを年に複数回実施した。また、教員が授業で活用したり、授業研究に活用したりできるデジタルコンテンツを開発した。本コンテンツは、文部科学省の「子どもの学び応援サイト」にも掲載されている。

2.事業目的と期待される成果

【課題認識】

教育現場には、教育の情報化や業務の効率化といった働き方改革に関する問題が山積している。令和元年度末から令和2年度にかけて新型コロナウイルス感染症の影響で全国的に休校措置がとられ、オンライン授業実施の有無や家庭ごとの教育環境等、教育の格差が顕在化している。こうした環境のもと、文部科学省が子どもたちの学びを止めないため、GIGA スクール構想の早期導入を進めている。このような現状から、教員には従来の教え方や働き方に拘泥しない新時代に相応しい資質能力が求められている。また、令和2年度より順次、新学習指導要領が全面実施される。社会の変化に対応し、主体的・対話的で深い学びが教育の現場で体现できる教員が求められている。

しかし、現状では次世代の人材を育成する教員自身が、社会の急激な変化に戸惑いを感じ、自身の教え方や働き方を変えられない大きな課題がある。GIGA スクール構想で機器が学校に導入されたとしても、教員自身が適切な情報の管理・活用や情報機器の操作に困難を感じている場合がある。

さらに、社会の在り方そのものが劇的に変わるとされる Society 5.0 の到来が確実視されている。この社会では、新しいアイデアを持つあらゆる人に可能性の扉を開け、創造性をもって新たな価値を創出できる。これからは Society5.0 に対応した教員が、日本の国力向上に寄与し、新時代に対応できる人材として切望される。

新しい時代を乗り越える教育現場にはこうした山積する課題への対応とともに、人材育成に資する効果的な研修の開発が求められている。

【事業目的】

本調査研究の目的は、民間教育事業者であるグーグル合同会社と連携し、教員の資質能力を向上させる e ラーニングの開発・実践を行うことで、創造性豊かな働き方や指導ができる教員を育てることである。創造性豊かに働くためには、教員の資質能力を向上させる必要がある。

実施校でも全国の大勢と同様、以前は児童・生徒のために際限なく労働する傾向にあった。人を育てる職業である教員が報告書や会議の時間に多くの時間を取られ、教材研究や授業準備は勤務時間を超えておこなっていた経緯があった。

実施校は、1965 年より「創造性教育研究」と題して主体的な学習の中における「想像」の役割に着眼し、「想像から創造へ」という言葉をキーワードにして、研究を続けている。全国に先駆けて「創造性」をキーワードとして教育を行ってきたが、特に教員の働き方の転換期となったのは平成 23 年度より文部科学省委託事業で開発し、実践している新教科メディア・コミュニケーション科設立である。そこでは、実施校が培ってきた「創造性教育」という理念を根幹とし、教員自身が効率的に、そして創造的に研究をおこなってきた。新教科で児童に対して情報に関する資質能力を育成するためには、教員自身が資質能力を理解し、児童の模範となる必要がある。

例えば、新教科で育てたい力の一つとして、情報の真偽の検討や物事を多角的・多面的に見るといった批判的思考(critical thinking)がある。教える側である教員も児童と一緒に悩み考えながらその力を身につけてきた。新教科では「批判的に思考する力」以外に、育てたい5つの力として、「相手を意識する力」、「目的に合わせてメディアを活用する力」、「メディアを選択する力」、「責任をもって発信する力」をあげている。これらの力は、創造的に働く教員にとって必要な資質能力であると考えられる。実施校では、指導する教員自身がこの5つの力を指導するために理解を深めると共に自身の資質能力を高め、研鑽を重ねてきた。つまり、平成 23 年度から現在まで、この研究を通して、これら資質能力を自身の教え方や働き方にも応用できることはないか模索してきた結果、身につけてきたのである。児童への指導の過程で、さらによりよい指導をすべく資質能力を高めたことで、新しい時代にあった働き方を実現してきた。

教員一人ひとりが資質能力を高める一方で、教育の情報化や創造的な働き方の観点から、実施校内の環境整備を進めてきた。クラウドサービスを利用し、データを教員間で共有することや一人一台端末によって場所を問わずに業務を行うことができるようになった。即時に情報を共有することで業務が効率化し、結果として時間のゆとりが生まれ、児童の指導に十分な時間をかけることができる。また、未曾有の感染症が発生し、休校措置が取られた際には、これまで進めてきた新しい働き方が功を奏し、オンライン授業を全国に先がけて実践することや在宅ワークを行うなど困難に対応しながら児童のために働くことができた。

このように、実施校が現在行なっている教育の情報化や創造的な働き方の知見とグーグル合同会社が企業に向けて開発した働き方に関する知見を連携させることで、全国の教員の働く姿勢を改善し、業務を効率化することができる。

実施校で培った教育の情報化や創造的な働き方の知見は、グーグル合同会社の創造的な働き方とコンセプトが共通しており、グーグル合同会社の持つ先端的なICT技術を活用した創造性の高い企画提案力や業務効率化の知見を、教員の資質能力の向上に適用できるようにしたい。そのために、実施校が教員研修プログラムの内容を企画・立案し、プログラムをグーグル合同会社が開発した。

【期待される成果】

調査研究の成果目標は、教員の資質能力を向上させる情報化や創造性豊かに働くことに関連したeラーニング(約30分)の開発である。そこではグーグル合同会社と連携し、3本のプログラムを作成し、教員研修を実施した。小・中・高・特支の教員100人以上に研修を実施し、教育の情報化や創造的な働き方に向けた意識変容や知識の獲得、業務の効率化の実践ができるか否かなどを問うアンケートにより結果を数値化し、研修プログラムの効果の測定を行った。

つまり、調査研究の成果目標は、次の2点を達成することである。

1. 教員が効率的に、そして創造性豊かに働くための資質能力を向上させるeラーニング研修(30分程度)を3本程度開発し、小・中・高・特支の教員100人以上に対して実践する。
2. 実践したeラーニング研修の効果検証をする。(アンケートを統計処理し、効果検証する。)

3. 調査研究の内容と方法

【調査研究の内容と方法】

本調査研究で実施する内容は、次の2点である。

- 1 情報化や創造的な働き方といった新しい時代に合った働き方に対応できる教員を育成するためのeラーニングによる研修の開発を行う。

教育の情報化や創造的な働き方ができるように、教員の資質能力を向上させるeラーニングの開発をグーグル合同会社と連携し、約30分の内容で3本の研修プログラムを作成した。このプログラムは社会状況を鑑み、受講者が同じ場所に集まることなく、場所を問わず受講できるようにweb型の研修として実践する。web型の研修にすることで、時間や空間に束縛されず、自分のペースで受講できる。また、動画を見るだけでなく、セッションの間に理解度が確認できるようなweb上のテスト(チェック項目)を設けることで、受講者自身が理解度を確認しつつ学習を進めることができる。もし理解度が不十分な場合は、繰り返し視聴することができ、従来の講義型の研修に比べ、受講者が主体的に取り組むことができる。プログラムを30分程度としているが、受講者が到達したい資質能力によってテーマを細分化し、受講者のペースに合わせて受講できるようにする。教育現場に合ったプログラムの内容になるように立案は実施校が行い、そのプログラムをeラーニングのコンテンツ化することをグーグル合同会社が行う。内容に関してはグーグル合同会社が既に発信している一般企業向けの働き方改革の動画をベースとし、学校現場の知見と企業の知見を融合させながら、教育現場のニーズに即したプログラムを開発する。

2 開発したプログラムを小・中・高・特支等それぞれの校種の教員に実践し、効果を検証する。

多くの教員が視聴できるよう、プログラムが開発できた時点で広報を実施する。自治体における教員研修の一つとして実践できるように働きかけ、小・中・高・特支の教員 100 人以上が研修を受けることを目標に実践を行う。プレリリースの際には、実施校にてeラーニングを実施し、内容の検討や増減等のシステムの不具合の確認等を行う。

eラーニングプログラムの内容をセッションの区切りごとに理解度や満足度を尋ねるように設定し、事前・事後の受講者がもつ情報についての知識や働き方の意識の変容などを数値として可視化し、プログラムの効果の指標として用いる予定である。

内容の検討や結果をもとにしたプログラム内容の改善に関しては、有識者の知見として、東京学芸大学教育学部准教授高橋純氏に有識者の立場から助言いただく。

【事業スケジュール】

月	事業内容
2020年 9月	○第1回調査研究会議：研究者顔合わせと研究計画人の確認(オンライン会議) →京都教育大学附属桃山小学校担当者，グーグル合同会社，東京学芸大学准教授高橋純氏 ○eラーニングの内容の立案，検討
10月	○第2回調査研究会議(京都)：eラーニングの開発・制作(撮影・編集)などを共同実施。 →京都教育大学附属桃山小学校担当者，グーグル合同会社，東京学芸大学准教授高橋純氏 ○作成したeラーニングをプレリリースし，不具合や内容検討をするためにモニターを募集し，実施。
11月	○プログラムの公開と広報(～12月) →全国の自治体に対してメール・SNS やウェブサイトを用い，eラーニングを実践してもらうための広報活動を行う(～12月)
12月	○eプログラムの効果や成果を検討 →研修受講者へのアンケート調査をもとにして効果を可視化する。
1月	○得られた結果をもとにして事業報告書作成・効果検討

2月	○第3回調査研究最終会議(京都):事業報告書作成に向け,データをもとにeラーニングの効果検証を行う。 →京都教育大学附属桃山小学校担当者,グーグル合同会社,東京学芸大学准教授高橋純氏
3月	○事業報告書提出

4. 開発プログラムについて

【開発の動機】

新型コロナウイルス感染症が拡大している社会状況を鑑み,受講者である小・中・高・特支の教員が同じ場所に集まることなく,場所を問わず受講できるようにweb型の研修としての実践を選択した。web型の研修にすることで,時間や空間に束縛されず,自分のペースで受講することができる。また,動画を見るだけでなく,セッションの間に理解度が確認できるようなweb上のテスト(チェック項目)を設けることで,受講者自身が理解度を確認しつつ学習を進めることができる。もし理解度が不十分な場合は,繰り返し視聴することができ,従来の講義型の研修に比べ,受講者が主体的に取り組むことができる。プログラムを30分程度としているのは,受講者が到達したい資質能力によってテーマを細分化し,受講者のペースに合わせて受講できるようにするためである。

【動画コンテンツの概要】

①業務の効率化」

内容の要旨

日本の教員の一週間あたりの勤務時間は長く,教員の業務負担量は大きい。「ペーパーレス」「データ共有」「一人一台PC」「オンライン授業」の4つを導入すれば,より短時間で,より効率的な授業や仕事を進めることができる。

「ペーパーレス」

双方向性を担保したオンライン学習ツールの一般化,保護者と学校をつなぐツールの導入等によって,ペーパーレスの動きは加速していくことが予想される。紙データがもつ大きなリスクに対応するためにも,学校でもペーパーレスを取り入れ,連絡プリントのデータ送信や学習プリントの双方向のやりとりなどを活用することで,業務の効率化を図ることができる。

「データ共有」

「クラウド化」することでスマホやタブレット等様々な端末で学校に関する資料を閲覧,書き込みすることができるようになる。また,仕事をする必要があるときに時と場所を選ばずに仕事ができるようになる。また,人為的なミスが起こりにくいルール付けをする事によって,セキュリティが突破される可能性も少なくなる。

「一人一台PC」

GIGAスクール構想の中に,一人一台端末が入っている。本格実施を控え,教員の情報活用能力のスキルアップは不可欠であり,デジタル機器が使えることが当たり前になる世の中で,教員が「使いこなすことができないから授業で使わない」という選択肢は取りにくくなる。端末

は発表をしたり、調べ物をしたり、思考を整理したり様々な使い方ができる。また、データも共有ができるということもメリットの一つである。しかし、充電器の横取りや学習街の使用など、様々な障壁もある。ルール付けをしても起こるトラブルではあるが、失敗しながら学んでいくことで次に繋げていくことができるものである。

「オンライン授業」

緊急事態宣言からオンライン〇〇が爆発的に増えた。オンライン授業もその一つである。少子化が進みつつある今、全てを対面で行わない方が効率的だという考え方がある。また、よりプロフェッショナルから教えてもらった方が授業を楽しめる、という考え方もある。公立学校で行われる授業の全てがそのまま当てはまる訳ではないが、一部導入というのは可能性として考えられるものである。即時にオンライン授業を実施し、継続してオンライン授業を実施することは多くはない。しかし、会議で導入することは可能である。オンライン会議を行うことで、通勤時間が削減され、加えて個人の経験値もあげることができ、業務改革にもつながる部分がある。

②クリエイティブな働き方

内容の要旨

やらされるのではなく、自分がしたいことを楽しんでできるようになるとクリエイティブな働き方ができるようになる。「時短を促す働き方」「経験年数に応じた教師スキル」「異校種間の連携」「情報共有の方法」を知り、活用することで、教師の働き方がクリエイティブになる。

「時短を促す働き方」

定時に勤務を終えている教員はほとんどいない。「子どもたちのために」という大義名分が教員の労働時間を増やしてきたことが現状である。時間内に業務を効率よく進めるためには、退勤する時間をあらかじめ決めておくことが大切である。また、デジタル化を進めることも必要になる。加えて、業務の分担も重要になってくる。複数の教員で学習に当たることで、業務の負担を軽減することができるようになる。

「経験年数に応じた教師スキルの磨き方」

教員は自分自身で教員としての資質・能力を伸ばしていかなければならない。研究発表会や学会など誰でも参加できる会で学ぶことや、学校や個人の呼び掛けで開いている会に参加する事によって、自己研鑽を行うことができる。

「異校種間の連携」

学校内の連携だけでなく、異校種間でも連携も重要であるスムーズな学校間接続のためにも、異校種間の連携は欠かすことができない。近い場合は集まって、遠い場合はオンラインで、定期的に情報交流する場をもつことで、一人ひとりの子の成長を多くの教員で見守ることができるようになる。

「情報共有の方法」

教職員が同じ方向を向いて、進んでいくためにも情報共有は必須である。クラウド上で情報共有をすることによって、参加することができない会議の内容を知ることができたり、これまでの

教員が行ってきた支援や指導の経歴を見ることができたりする。学年間の接続をスムーズにすることはもちろんのこと、過去の資料をもとに旧担任と子どもの指導について情報を共有して話をするができるようになる。また、空間や時間の制限に縛られることもないため、共通の課題や問題の解決に、学校の全教職員で当たることができる。緊急時にも迅速な対応をすることができるようになる。

③外部との連携

内容の要旨

社会に開かれた学校づくりのために、外部との連携は必須である。外部との連携とは、「保護者との連携」「企業のゲストティーチャー」「博物館・水族館・美術館等のデジタルコンテンツ」の3つがある。

「保護者との連携」

学習相談や生徒指導、欠席連絡や忘れ物の連絡など保護者との連絡事項は多種多様である。教員間の事務連絡は簡潔に、そして保護者へ子どもたちのことを伝えたり、家庭での様子を教えてもらったりすることは丁寧にやっていく必要がある。ノートへのコメントや一筆箋など伝え方の工夫をすることで、保護者と繋がりを持ち、トラブルを減らすことができるようになる。

「企業のゲストティーチャー」

子どもたちのほとんどは「先生」になるわけではない。様々な職業の方達に合わせるという機会を作り、将来の大人像のモデルになるような姿を提示していくのも教員の大切な仕事である。保護者や自分自身の友人、馴染みの店などの繋がりをもとに、ゲストティーチャーを呼んでいくことで担任としての魅力も間接的に上がり、ネットワークも作るようになる。

「博物館・水族館・美術館等のデジタルコンテンツ」

デジタルコンテンツとは、コンピュータさんで扱えるデータで、パソコン等の電子機器を使って、見たり、聞いたり、読んだり、使ったりするコンテンツである。「ここまで来て見てください」ではなく、「人類の財産なのでシェアしましょう」「興味深いものがあれば、ぜひ来館ください」という傾向は世界的な流れである。このようなコンテンツを活用していくことで、子どもたちの学びを深めることができるようになる。

【各動画コンテンツの詳細】

動画コンテンツで使ったスライドは以下の通りである。①業務の効率化

業務の効率化

1

業務の効率化

Part 1 「ペーパーレス」
Part 2 「データ共有」
Part 3 「一人一台『PC』」
Part 4 「オンライン授業」

2

Part 1
ペーパーレス

3

学校の紙

- ・週案
- ・職員会議資料
- ・学級通信/学年通信
- ・学校便り
- ・出席簿
- ・成績データ

4

学校の紙

- ・週案
- ・紙への絶大な信頼
- ・学校便り
- ・出席簿
- ・成績データ

5

ペーパーレスが進まない理由

利点	進まない理由
<ul style="list-style-type: none"> ・削減できる ・失くさない ・安心 	<ul style="list-style-type: none"> ・努力がしんどい ・必要性を感じない

現状維持

6

リスク



紙データによるリスク



記憶媒体によるリスク

情報漏洩の危険性

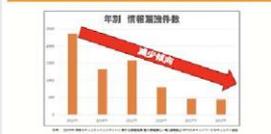
7

媒体・経路別 漏洩件数



8

5年間で、情報漏洩 1,914件減少



9

阻害要因



IT導入前の民間企業でも同じ

19

アンケート

- ・ペーパーレスは導入されているか
- ・ペーパーレスが導入されない阻害要因は何か
- ・どのような点からペーパーレスを始められるか

20

Part 2
データ共有

21

ペーパーレス

セキュリティが心配

22

クラウド

- ①LINE ②Gmail ③YouTube
- ④写真や電話番号のバックアップ
- ⑤インターネット検索や音楽入り

本当に危険？

23

クラウドを使用しない

- ① LINEの代わりに手紙
- ② 写真を送るのに現像
- ③ ネット検索の代わりに図書館

▲上記でなければならぬ時は、ほとんどない

クラウドには毎日触れている

24

『スマホ』セキュリティ

友人や家族、第三者に情報が漏れればマズい***

↓

- ・パスワード入力
- ・指紋認証
- ・顔認証

25

スマホデータ	学校で扱うデータ
<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・個人情報 ・知らないやりとり 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料 ・個人情報 ・保護者のやりとり

【スマホデータ】【学校で扱うデータ】の考え方は同様

26

人間的ミス

- ・ロックのかけ忘れ
- ・パスワードメモの紛失
- ・誤操作

約50%が人為的なミス

セキュリティ突破

27

人為的なミス

- ・ロックのかけ忘れ
- ・パスワード紛失
- ・悪意のある方にデータを渡してしまった

28

人為的なミス

- ・ロックのかけ忘れ
- ・パスワード紛失
- ・悪意のある方にデータを渡してしまった

ルール作り

29

「クラウド化」でできること

それぞれの端末から資料を閲覧、書き込みできる

同じデータ

30

紙媒体

- ・その「紙」のある場所でのしか仕事ができない

クラウド

- ・場所を選ばず、閲覧・編集できる

良い方向・悪い方向にも捉えられる

31

良い方向

- ・必要に応じて、閲覧できて便利
- ・場所を選ばず、仕事ができる

32

悪い方向

- ・自宅でも仕事をしないとイケない
- ・業務量が増える

33

クラウド化することで

休日に管理職が返信を求めてくる

「ブラックな仕事」を防ぐ『ルール付』が必要

34

アンケート

- ・学校で使っているクラウドシステムは何か
- ①LINE ②Googleドライブ ③BOX ④DropBox ⑤iCloud
- ・データ共有ができるようになった時の使い道

35

Part 3

一人一台端末

36

ペーパーレス化が進んでいる

電子化率により、2011年以降、紙の使用は減少している

10

ペーパーレスの学校現場での加速

- ① 双方向性を担保したオンライン学習ツールの一般化
- ② 保護者と学校をつなぐツールの導入
- ③ 「ハンコを押す」という行政ルールの簡略化への動き

11

教員の対応（現状）

緊急事態宣言中

- ・家庭訪問を何度も繰り返す
- ・プリントをひたすら丸つけ

12

教員後

「結局、教育現場は何も変わらなかった」で大丈夫でしょうか？

13

オンライン

紙ベース

一般企業

家庭

学校

14

15

紙

- ・週案
- ・職員会議資料
- ・学級通信/学年通信
- ・学校便り
- ・出席簿
- ・成績データ

データ

- ・メール配信
- ・連絡プリントのデータ送信
- ・学習プリントの双方向やりとり

16

ペーパーレス対応が求められる

17

阻害要因

- ・一つの学校ができることに限りがある
- ・一部の先生に、強い抵抗感がある

18

オンライン授業

「オンライン○○」

1. オンライン会議
2. オンライン面接
3. オンライン飲み会
4. オンラインサロン
5. オンライン診療
6. オンラインフィットネス

55

オンライン授業

「オンライン○○」

1. オンライン会議
2. オンライン面接
3. オンライン飲み会
4. オンラインサロン
5. オンライン診療
6. オンラインフィットネス
7. オンライン授業

※研修では最下位の実施率

56

コロナ対策が落ち着いた
オンライン授業も消滅？

オンライン授業

研究が進んでいく分野

57

少子化 地域格差の拡大

人が密集するところ、いなくなるところができる

対面で行わない方が効率的

58

授業内容

プロフェッショナルが教える

授業の内容がより楽しみなものに

オンラインでの講義を効果的に用いる予備校も

59

公立学校でのオンライン授業

一部導入の可能性は十分考えられる

60

オンライン授業 知っておいた方がよいこと

- ・どのようなオンライン授業が行われているのか
- ・どのように「授業」の形態に変化していくのか

61

オンライン授業の導入
組み立てのヒント

小学校1年生がはじめて学校に来た時をイメージ

小学校1年生

一つ一つ教えていく必要がある

62

同じイメージ

小学校1年生 初めての学校

リアルタイム動画 システム授業

オンライン授業について、一つ一つ教えていく必要がある

63

GIGAスクール構想

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを整備することで、多様な子供たちを一人取り扱うことなく、資質・能力一貫授業に育んでいく教育環境を実現する

37

『端末』と筆記用具が同等に扱われる時代

38

社会の変化 手書きが任意的に少ない社会へ

タイピング

パソコンが主流

いつ子どもたちに学ばせるか？

39

デジタルネイティブ

スマホ
タブレット
YouTube

デジタル機器を
使えるのが当たり前

40

授業中のデジタル機器利用時間

日本はOECD加盟国の中で最下位

国	授業中のデジタル機器利用時間 (分)
韓国	21.1
中国	19.4
台湾	18.8
香港	18.7
日本	17.9
オーストラリア	17.8
ニュージーランド	17.7
フィンランド	17.6
スウェーデン	17.5
デンマーク	17.4
韓国	17.3
中国	17.2
台湾	17.1
香港	17.0
日本	16.9
オーストラリア	16.8
ニュージーランド	16.7
フィンランド	16.6
スウェーデン	16.5
デンマーク	16.4
韓国	16.3
中国	16.2
台湾	16.1
香港	16.0

41

実際にあった事象①

充電器の横取り

誰がどのコードを使うのか

42

実際にあった事象②

休み時間の端末使用による学習外使用

魅力的な動画
無関係のゲーム

43

実際にあった事象③

友達間での窓口の送りつけ合い

なりすまし

44

実際にあった事象

充電器の横取り
学習外使用
窓口の送りつけ合い

「教員」と「子ども」が共に失敗しながら学ぶ

45

5年間で、情報漏洩 1,914件減少

年別 情報漏洩件数

減少傾向

ペーパーレス化に伴って漏洩件数が減少

73

②クリエイティブな働き方コンテンツ

<p>おたより</p> <p>デジタル化</p> <p>印刷などの 労力が最小限に</p>	<p>児童の写真</p> <p>アップ</p> <p>保護者が登録する 閉鎖的ネットワーク環境</p> <p>・大量のデータを共有 ・子どもの作品を手軽に 見られる</p>	<p>会議や放課後発表</p> <p>・議事録がクラウド上に ・時間を設定した 電話対応 ・書類配布の必要がな (18時以降は留守番電)</p>
10	11	12
<p>業務の分担</p> <p>複数の教員で学習指導にあたる</p> <p>高学年は、教科担任制に移行する方針</p>	<p>子どもたちをみんなで育てる</p> <p>学生 教員</p> <p>地域のボランティア</p> <p>子ども</p> <p>スクールサポーター</p> <p>支援員</p> <p>業務を分担して働いていくことが大切</p>	<p>アンケート</p> <p>・勤務校でしている働き方/効率化のための工夫</p> <p>・「教師の働く一日」動画の解説して欲しいポイント</p>
13	14	15
<p>Part 2</p> <p>経験年数に応じた教師スキル</p>	<p>初任時</p> <p>・指導教員のサポート ・初任者研修の実施</p> <p>その後</p> <p>自分自身で教員としての資質能力を伸ばしていく</p> <p>研究会に入る</p> <p>研修への参加 書籍を読む</p>	<p>研修</p> <p>時間や場所を問わない研修会</p> <p>↓</p> <p>経験年数に応じた資質能力を 効率よく伸ばせる</p>
16	17	18
<p>クリエイティブな働き方</p>	<p>クリエイティブな働き方</p> <p>Part 1 「時短を促す働き方」</p> <p>Part 2 「経験年数に応じた教師スキル」</p> <p>Part 3 「異校種間の連携」</p> <p>Part 4 「情報共有の方法」</p>	<p>Part 1</p> <p>時短を促す働き方</p>
1	2	3
<p>子どもが帰った後の仕事</p> <p>・教材研究 ・丸つけ ・保護者へ連絡 ・学年会 等</p> <p>定時退勤が困難な状況</p>	<p>「子どもたちのために」</p> <p>労働時間の増加</p> <p>帰宅時間が遅くなる</p> <p>休日に仕事をする</p>	<p>京都教育大学附属 朝山小学校</p> <p>働き方の意識改革</p> <p>充実</p> <p>仕事 プライベート</p>
4	5	6
<p>業務を効率よく進めるには？</p> <p>ポイント</p> <p>退勤する時間の目標を設定</p>	<p>児童とのやりとり 健康観察・欠席連絡 等</p> <p>アプリの使用</p> <p>・記録として残る ・電話対応時間の削減</p>	<p>授業の実施</p> <p>デジタル上で教材を作成</p> <p>詳細は 別動画を参照</p>
7	8	9

一週間の予定

28

月間・年間計画

29

デジタルとアナログの併用

デジタル アナログ

30

クラウド

- ・空間や時間に縛られない
- ・学校の全教職員で共通の問題解決に取り組める

31

緊急時

緊急事態宣言発令

↓

意見や、考えを『クラウド』で共有

32

クラウド活用例

Box

33

クラウド活用例

Google ドライブ

34

クラウド活用例

ZOOM Google Meet

緊急時

オンライン会議

35

会議に参加できない場合

↓

議事録をクラウドに保存

36

クラウド活用例

『生徒指導の記録』を共有

- ・配慮すべき事項や、成長の足あと
- ・支援や指導の経歴の確認

↓

新・旧担任で連携が取れる

37

アンケート

- ・学校で現在取り組まれている情報共有の方法
- ・情報共有を行う上で困っていること

38

まとめ

39

ビジネス

保存 紙→フロッピーディスク→USB→クラウド

情報伝達 電話→メール→チャット

急速な変化

「学校」だけが取り残されている現状

40

子ども ・遊戯アプリやゲーム
→文章や写真のデータ送信

保護者 ・チャットグループ
→必要な情報のやりとり

↓

学校 時代に合った仕事の仕方への変更を!

41

例1

校種 教科

研究発表会や学会への参加

大学主催のセミナー 講演会

19

例2

本校では「竹の会」

学校や個人が呼びかける勉強会への参加

20

ポイント

- ・自分の興味や課題、時間に合っているか
- ・学びや人脈を広げられるか

21

Part 3

異校種間の連携

22

異校種連携

幼稚園 小学校 中学校

幼稚園と中学校と連携していく

23

幼小中連携 構想

京都教育大学附属嵐山地区学校

幼稚園 小学校 中学校

徒歩1分圏内

24

フライングノート

情報交流 研究発表会に向けての実践

「教科」を単位とし、月に一度情報交換(第3木曜日)

25

Part 4

情報共有の方法

26

一日の予定

27

桃小版働く教員の一日コンテンツ

 <p>9:15</p>	 <p>朝の会</p>	 <p>9:25~</p>
10	11	12
 <p>授業</p>	 <p>授業</p>	 <p>13:00</p>
13	14	15
 <p>給食指導 (配膳)</p>	 <p>給食指導 (いただきます)</p>	 <p>13:30</p>
16	17	18
 <p>清掃指導</p>	 <p>13:55~</p>	 <p>授業</p>
19	20	21
 <p>15:30</p>	<p>終わりの会</p>	 <p>~16:30</p>
22	23	24
 <p>放課後業務 (補習)</p>	<p>放課後業務 (保護者連絡)</p>	 <p>16:30~</p>
25	26	27
 <p>採点</p>	<p>教員間打ち合わせ</p>	 <p>18:00</p>
28	29	30
 <p>退勤</p>		
31		

③外部との連携コンテンツ

外部との連携

外部との連携

Part1 保護者との連携
Part2 ゲストティーチャー
Part3 デジタルコンテンツ

阻害要因

①調整に時間がかかり煩雑
②外部連携に係る手間と負担
③トラブルで連携自体が消滅

Part1
保護者との連携

「保護者との接続」の現状（2020年9月）

担任「から」の連絡回数と媒体

- 欠席対応 3回（電話）
- 登校指導 1回（電話）

「保護者との接続」の現状（2020年9月）

保護者「から」の連絡対応と媒体

- 欠席回答 3回（電話）
- 教材購入相談 2回（電話、ノートアプリ）
- 体温報告 7回（ノートアプリ）

電話の内容

- 体調確認 13回 事務連絡
- 学習相談 2回
- 生徒指導 1回 丁寧な対応が必要

ほとんどが「事務処理」

教師

いいことを伝えたい

保護者

いいことを聞きたい

しかし

- ケンカをした
- ケガをした
- 忘れ物が多い

マイナスな
内容に
なりがち

いいことを伝えるために

- 音読カードに一貫加える
- 良いこと、頑張ったことを一筆箋に
- 丸つけ時にコメント

音読カード

一筆箋

ノートへのコメント

クレーム件数の減少

アンケート

①保護者連携で、簡単にできればいいこと
②保護者連携で、実際にやっている工夫

ゲストティーチャー

↓

時期

人物

目的

ほとんどの教員が把握できていない

ゲストティーチャー日程表

・開催日をおくつか設定
・教員間で、月間の予定を
照らして調整

19 **ゲストティーチャーと呼ぶ**
ポイント **なぜ呼びたいのかを明確に**
単元に関わりがある
生活科・社会科・総合的な学習の時間

20 **社会に開かれた学校づくり**
世の中には、約28,000種類の職業がある
スーパーマーケット → 「スーパー見学」「店長の招聘」
全く知らない職業がある

21 **スーパーマーケット**
冷蔵庫、エコバッグ、無人レジ
大田冷蔵株式会社、セレクトショップ店員、無人レジサービスマン
学習の幅・物事の視野が広がる

22 **ゲストティーチャー」と繋がるきっかけ**
①保護者
②友人
③馴染みの店

23 **ゲストティーチャー」と繋がるきっかけ**
①保護者
世間話の延長でお仕事の話をする
PTA活動、参観

24 **ゲストティーチャー」と繋がるきっかけ**
②友人
繋がりを持ち続ける中での依頼
SNS

25 **ゲストティーチャー」と繋がるきっかけ**
③馴染みの店
時々立ち寄りのお店に声をかけてみる
人柄、雰囲気

26 「先生」に興味のある方は意外と多い
校区内、校区外
子どもたちを連れて行って声がかかりやすいか確認
学校にお呼びする
人の「魅力」に触れさせる

27 **ほとんどの子どもが教員にならない**
人生の「モデル」となる人と出会う

37 **業務バランスをとる**
短期的ではなく、長期的な視点
子どもたちのために、何ができるか考える

38 **業務の工夫**
・デジタル ・ペーパーレス
・事務軽減 ・授業工夫 その他
工夫次第で、働き方が大きく変わる

28 **ほとんどの子どもが教員にならない**
社会に開かれた学校作り

29 **つながりが広がると、次に繋がる**
若手教師もチャレンジしていく

30 **アンケート**
①どのような職種の方と子どもたちを会わせたいか
②地域とのつながりを持つためにしている工夫

31 **Part3 デジタルコンテンツ**

32 **デジタルミュージアム**
メトロポリタン美術館
約40万点の所蔵品をWEB公開

33 **日本でも「デジタルコンテンツ」が進んでいる**
・自治体や調べたいテーマ
・博物館・水族館・美術館
・デジタルコンテンツ/ミュージアム
子どもに閲覧させる

34 **アンケート**
①調べたデジタルリンクを1つ以上貼る
②コンテンツをどのように活用するか

35 **まとめ**

36 **今回のまとめ**
・保護者との連携
・ゲストティーチャー
・デジタルコンテンツ
業務で忙しい。仕事を増やせない

【成果物の発表】

・動画コンテンツ専用の HP を作り、リンクを京都府教育委員会、京都教育大学附属桃山小学校HPに記載した。

<https://f-momosyo.com>

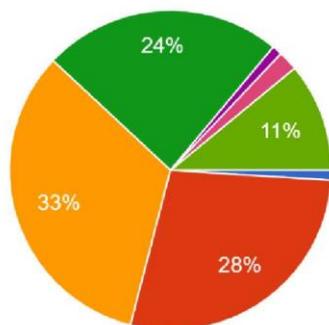
5. アンケートの内容と分析

『業務の効率化』アンケート結果報告

有効回答数は100件である。(3月5日時点)

受講者の方の勤務年数をお教えてください

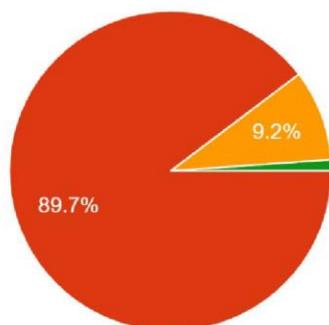
100件の回答



- 初任
- 2～5年目
- 6～10年目
- 11～20年目
- 21年目以上
- 退職して再任用である
- 休職中または退職している
- 教諭ではない

校種をお教えてください。

87件の回答

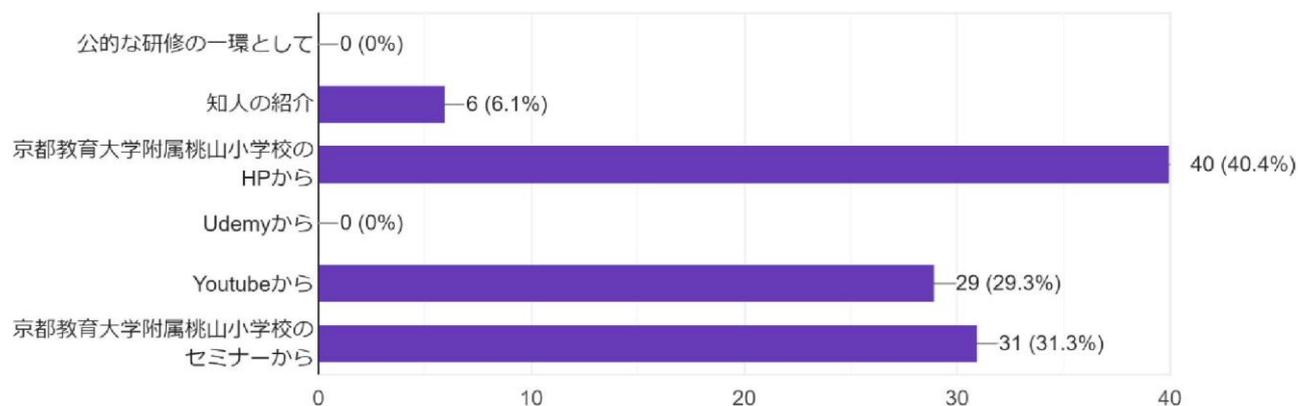


- 幼稚園・保育園
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 大学
- 特別支援学校

研修内容について

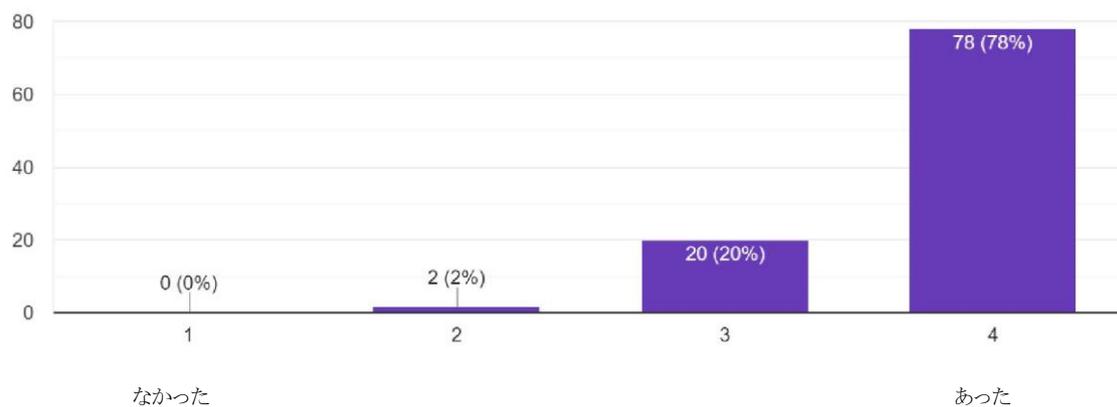
1. 本動画を見たきっかけは何ですか。

99件の回答



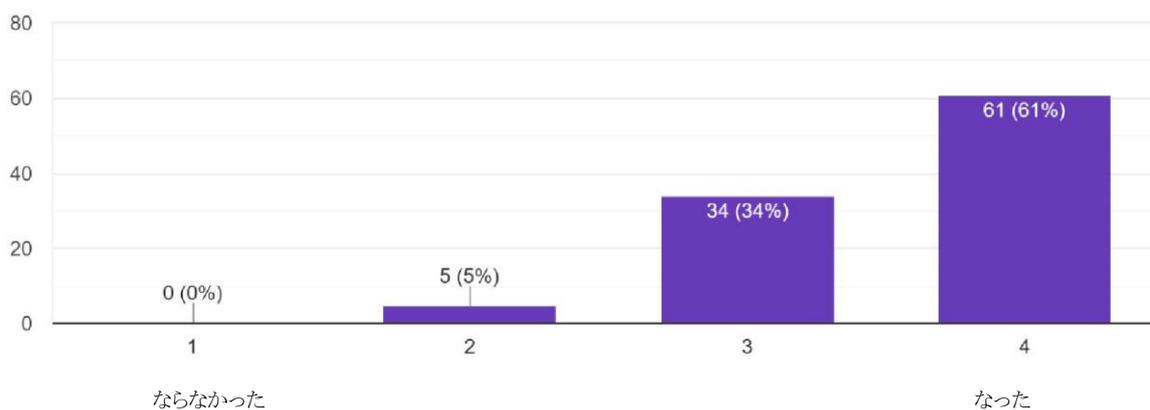
2. 本動画を見て、働き方の参考になる内容がありましたか。

100件の回答



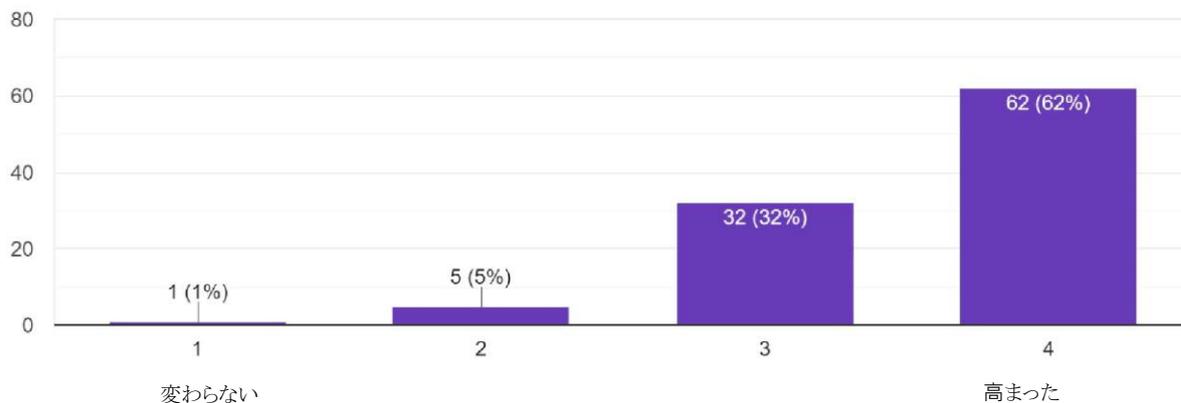
3. 自分の働き方を見直すきっかけになりましたか。

100件の回答



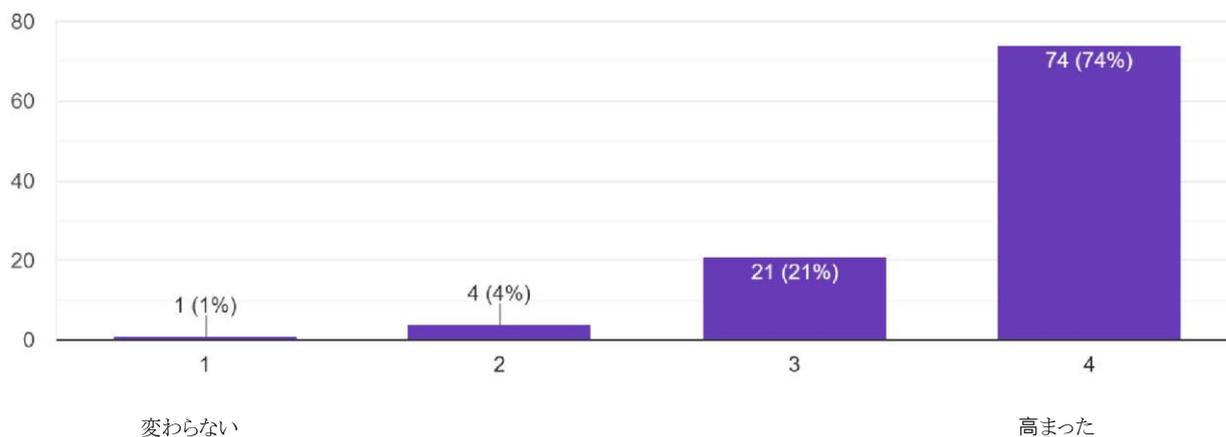
4. 本動画を見て、さらに研修・研鑽を積んでいきたいという気持ちが高まりましたか。

100件の回答



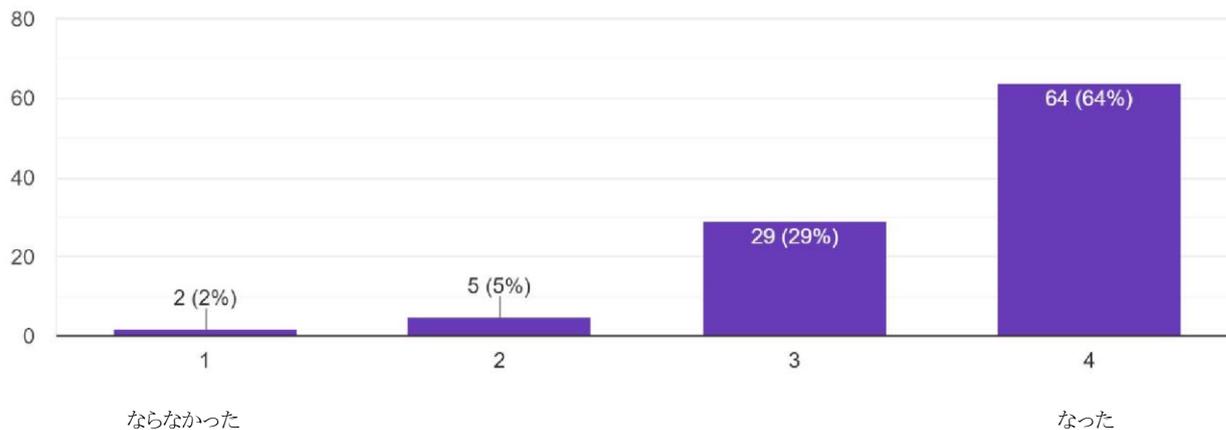
5. これまでの働き方を変えたいという気持ちが高まりましたか。

100件の回答



6. 研修を受けて、やるべきことが明確になりましたか。

100件の回答



7. さらに知りたい内容はありますか。自由にお書きください。

GIGA スクールが始まった時 1 年生に教えるように取り組むということでしたが、具体的には起動からでしょうか。

動画内容に関連した質問

①みなさんの学校ではペーパーレスが導入されていると思いますか。

いいえ。かなり紙を使っています。

されていないと思います。

まだ完全にはできていないと思います。

まだ紙を使用していることが多いように感じます。(2 件)

導入されていないと思います。

思いません。

思わない。

②学校で導入されている要因や導入されていない阻害要因は何だと思えますか。

学校全体でタブレット機器が完全に普及されていない。

学校の体制が整っていない。スキルが伴わない。

環境が整っていないことだと思います。

システムができていない。

情報を管理するスキルが伴っていないとおもいます。

スキルが伴わないです。

ICT 機器を使用する環境が整わない。

設備が整っていない。

③もし学校にペーパーレスが導入できるとしたら、どのような点から始めるとよいと考

えますか。

会議の資料、保護者への連絡

会議資料のペーパーレス化

保護者への連絡、会議資料を PDF にする等

職員会議の資料、日誌

行事の案内・保護者に向けた手紙など

保護者との連絡、会議の資料など

学校行事の案内や学級通信

職員会議の資料、課題提出の方法の改善

④もし今学校に好きなようにデータ共有ができるようになったら、どのような使い方を
して

みたいですか。

課題の提出など

児童の学習状況をタブレット上で管理

不登校気味な児童への指導

不登校児童への授業

学校に来ていない児童への学習援助のようなものができればと思います。

課題の提出を紙面ではなくデータで管理する。

他クラスとの情報の交流、

⑤学校で必要になるであろう端末使用に関するルールを記載してください。

他人を傷つけない使い方をすること

個人情報の扱い、使用用途の確認

個人情報の扱い、使う時間のルール。

人を傷つける使い方をさせない。

個人情報の扱い方・人を傷つけるような使い方をしない。

他人を傷つけるような使い方をしないなど

情報モラルに関するルール（著作権や個人情報など）

⑥実際に授業で活用する場合には、どのような教科や領域のどのような場面で使ってみ

たいですか。

社会科や理科で写真や動画を用いた授業を実践してみたいです。

児童同士の考えや意見を全体で共有して学習に活かしたい。

休校になった場合、国語、算数の授業。理科社会はNHKfor スクールを取り入れて授業を行うことができる。

どの教科においてもプリントの配布や資料の提示をタブレット上で行いたいです。

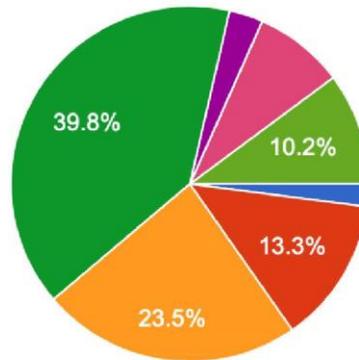
児童が調べたことを発表する場面で、ICT 機器を用いて発表

社会科での資料提示など

『クリエイティブな働き方』アンケート結果報告有効回答数は98件である。(3月5日時点)

受講者の方の勤務年数をお教えてください

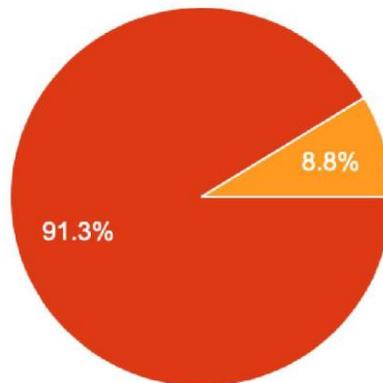
98 件の回答



- 初任
- 2～5年目
- 6～10年目
- 11～20年目
- 21年目以上
- 退職して再任用である
- 休職中または退職している
- 教諭ではない

校種をお教えてください。

80 件の回答

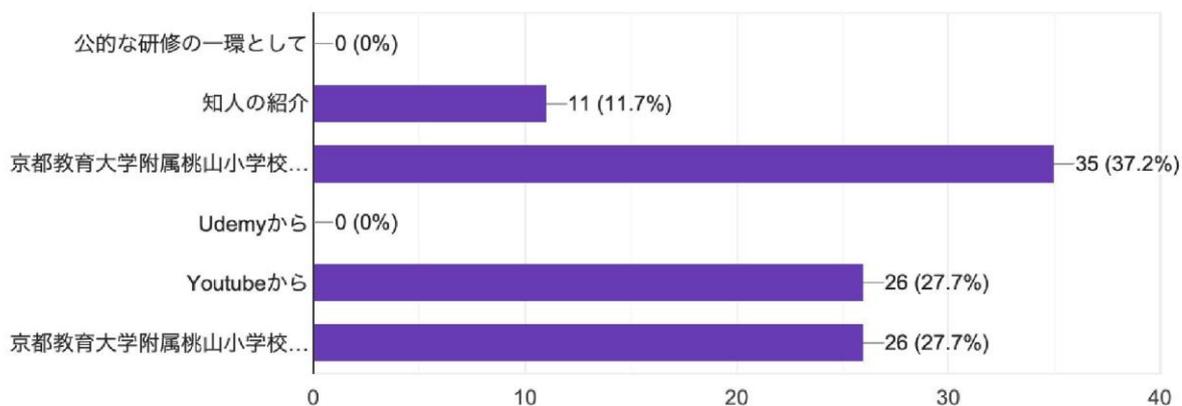


- 幼稚園・保育園
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 大学
- 特別支援学校

研修内容について

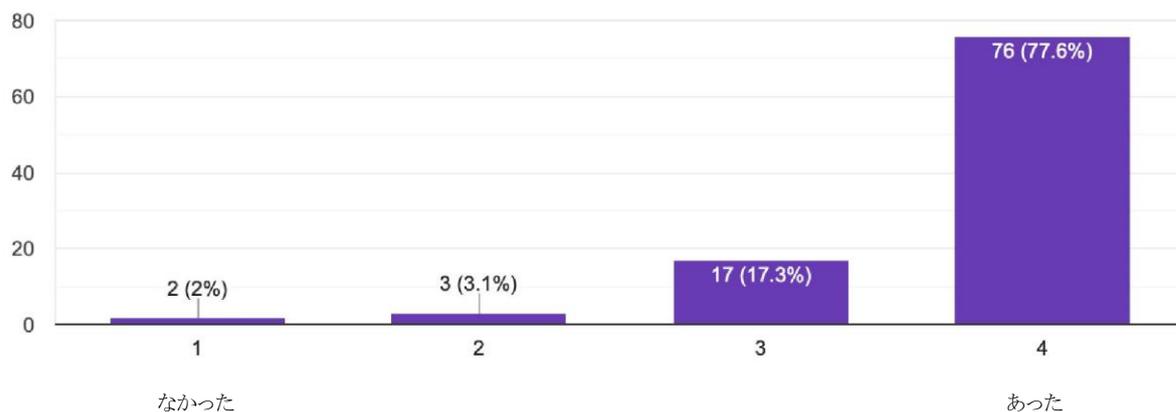
1. 本動画を見たきっかけは何ですか。

94 件の回答



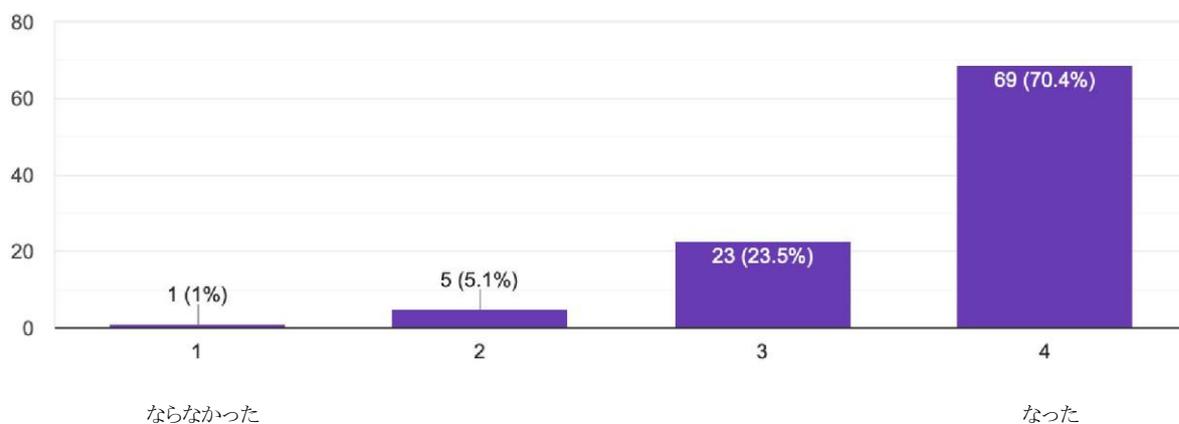
2. 本動画を見て、働き方の参考になる内容がありましたか。

98 件の回答



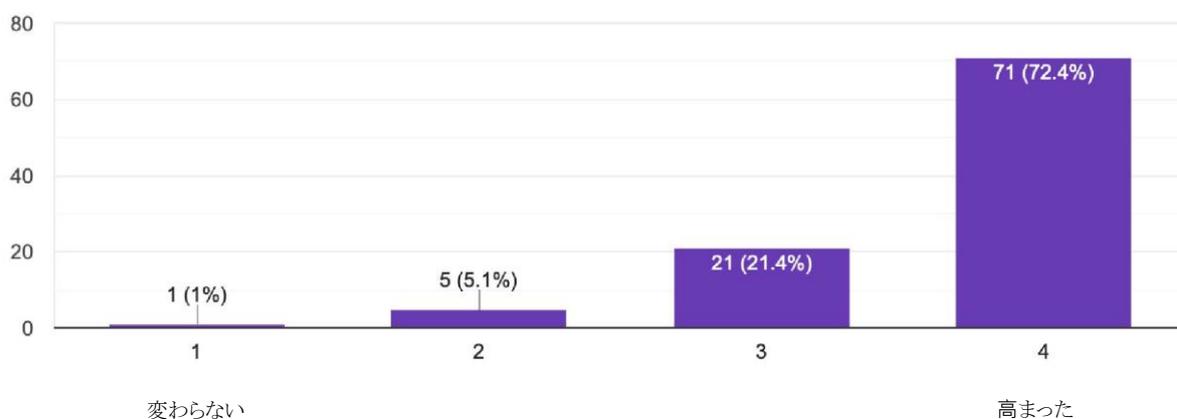
3. 自分の働き方を見直すきっかけになりましたか。

98 件の回答



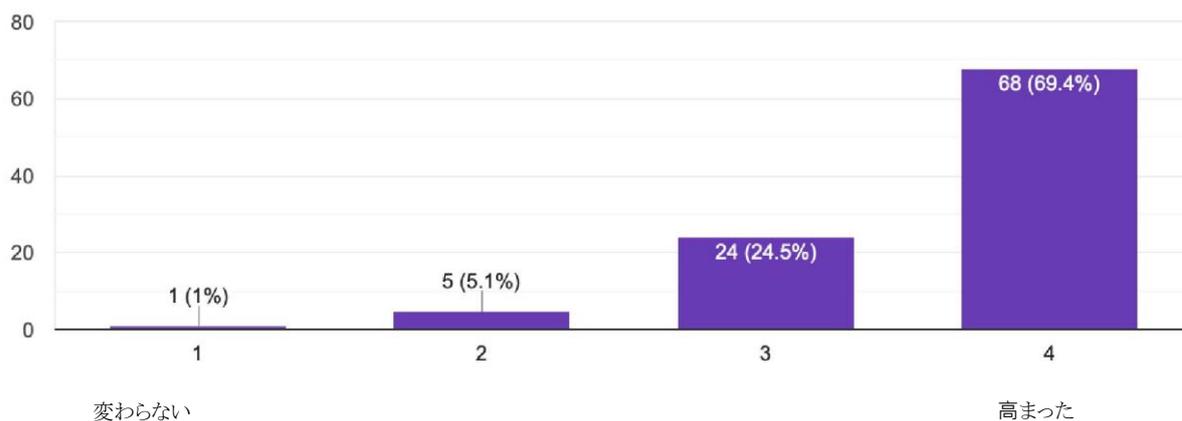
4. 本動画を見て、さらに研修・研鑽を積んでいきたいという気持ちが高まりましたか。

98 件の回答



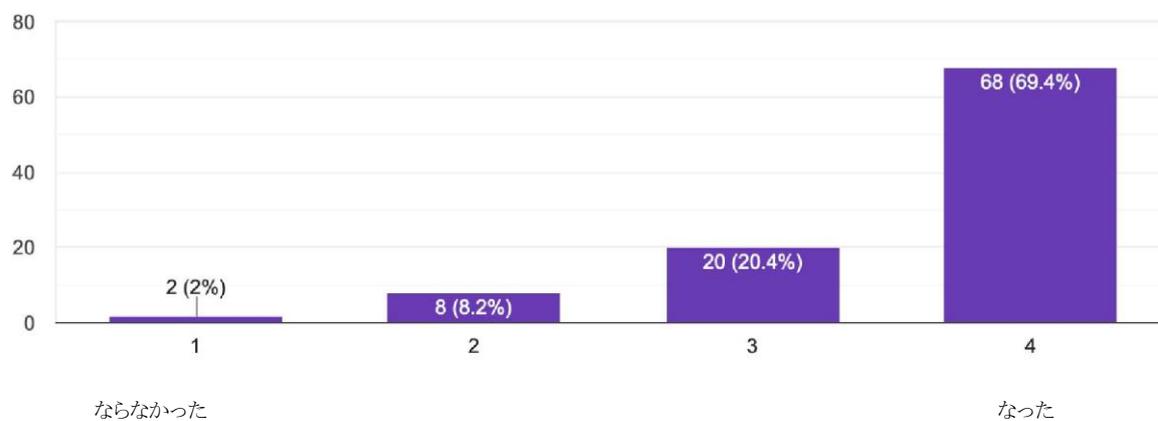
5. これまでの働き方を変えたいという気持ちが高まりましたか。

98 件の回答



6. 研修を受けて、やるべきことが明確になりましたか。

98 件の回答



動画内容に関連した質問

- ① 皆さんの時短を促す働き方や効率化の工夫を教えてください。

会議は伝達する内容と審議内容に分ける。会議の回数を減らす。結構同じ内容のものや重複したものがある。

共有フォルダの整理やメールの管理はこまめに行うようにしています。

職員朝礼の時間を削減し、ICT等を利用して情報共有をするようにしています。

引き継ぎの書類などは、行事が終わってすぐに引き継ぐようにしています。

私の学校でも、ホワイトボードを利用して、職員朝礼の時間を削減しています。

会議資料などはクラウド上で共有しており、印刷等の手間が省けます。

環境整備を意識して、物を探す手間を省いたり、会議資料をデジタル化したりしています。

共有のフォルダは綺麗に整理されていると思います。

会議資料をいちいち印刷するのをやめました。

- ② 「教師の働く一日」の動画からもっと解説してほしいポイントがあればお書きください。

子どもと関わる時間の確保

「生徒指導の記録」を共有は具体的にどのようにされていますか。

家庭との連携をデジタル上で行うにあたって、トラブルなどはありませんでしたか。

職員会議で時短のために行われていることがあれば、もう少し詳しく伺いたいです。

健康観察をだしていない家庭にはどのように対応されるか。

授業時での「効率化」は具体的にどのようなことをされているのでしょうか。

教員間の打ち合わせや職員会議などでの工夫されていることがあれば教えていただきたいです。

デジタル上での家庭とのやり取りについて詳しく聞きたい。

子供が帰った後の、業務についてもっと詳しく教えていただきたいです。

- ③ みなさんの学校や職場で現在取り組まれている情報共有の方法や困られていることを教えてください。

掲示板共有。全体の朝礼のあとに学年伝達を実施し、抜けがないようにする。

公立校ではよくあることだが、校長がなんでもかんでも絡んでいないことがすすめない。管理職である教頭がいても進まない。これが会議の2度手間である。どうしようもないが、これがクリアできると仕事のスピードが速くなるはず。

職員室にホワイトボードがあり、そこに連絡事項等を記入していく形をとっています。情報共有をデジタル上に統一しても、結局口頭での説明を必要とし、時間がかかってしまう。

クラウド上に情報共有しても、全員がその仕組みを理解できていない。

dropboxなどのクラウド上で共有できるものを使用しています。

新学期への引き継ぎに時間がかかるので、何か工夫されていることがあれば教えてほしいです。

データ共有ソフトを使用して行なっています。

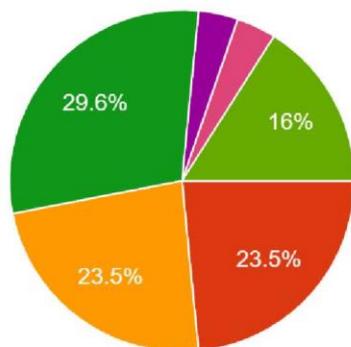
紙媒体でのデータ共有はほとんどしなくなりました。全てクラウド上で行なっています。

『外部との連携』 アンケート結果報告

有効回答数は81件である。(3月5日時点)

受講者の方の勤務年数をお教えてください

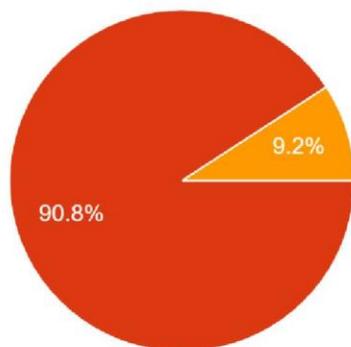
81件の回答



- 初任
- 2～5年目
- 6～10年目
- 11～20年目
- 21年目以上
- 退職して再任用である
- 休職中または退職している
- 教諭ではない

校種をお教えてください。

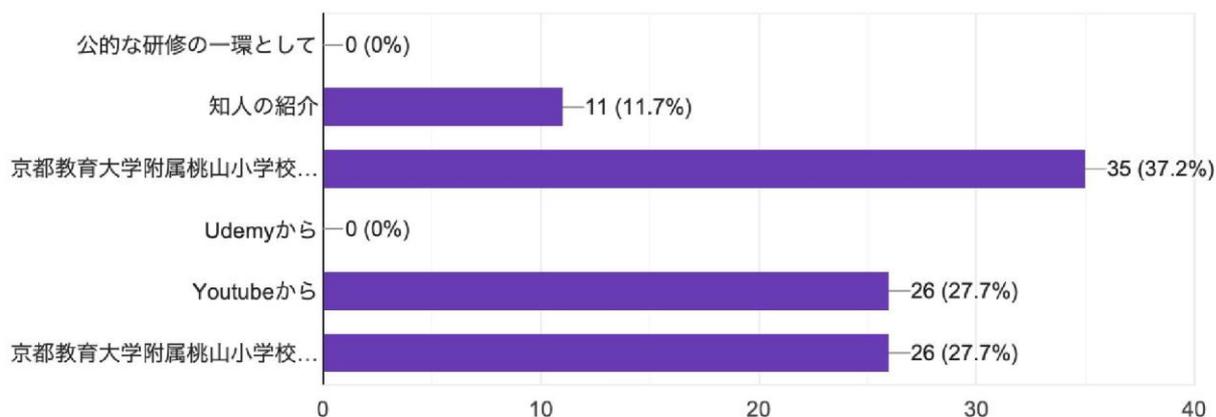
65件の回答



- 幼稚園・保育園
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 大学
- 特別支援学校

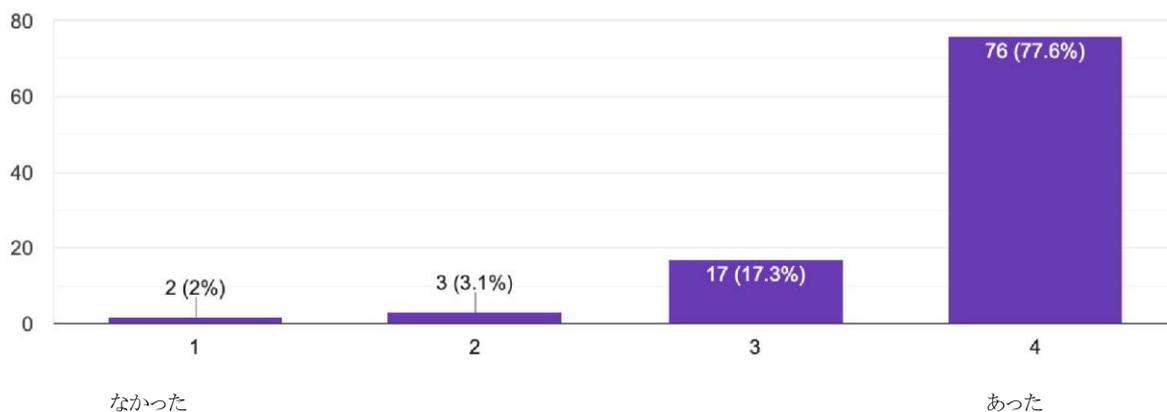
1. 本動画を見たきっかけは何ですか。

94 件の回答



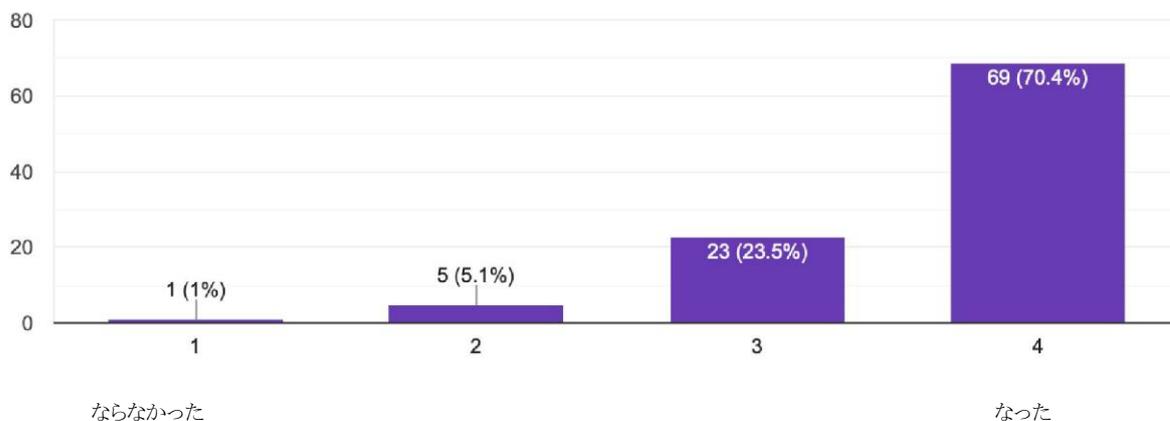
2. 本動画を見て、働き方の参考になる内容がありましたか。

98 件の回答



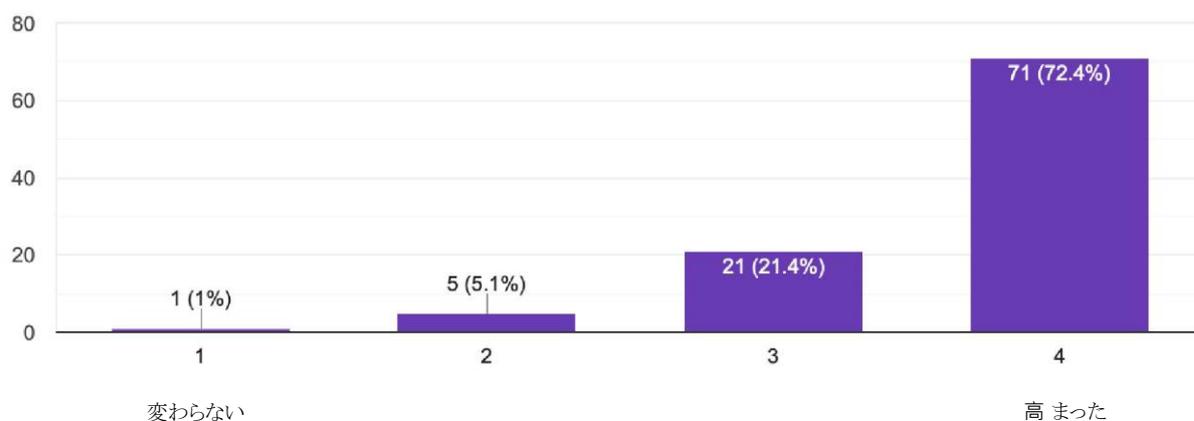
3. 自分の働き方を見直すきっかけになりましたか。

98 件の回答



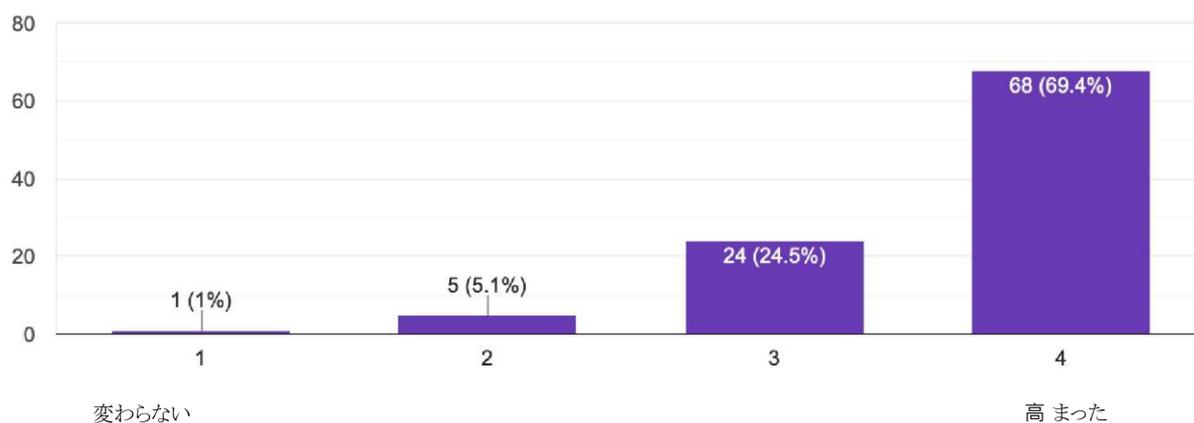
4. 本動画を見て、さらに研修・研鑽を積んでいきたいという気持ちが高まりましたか。

98 件の回答



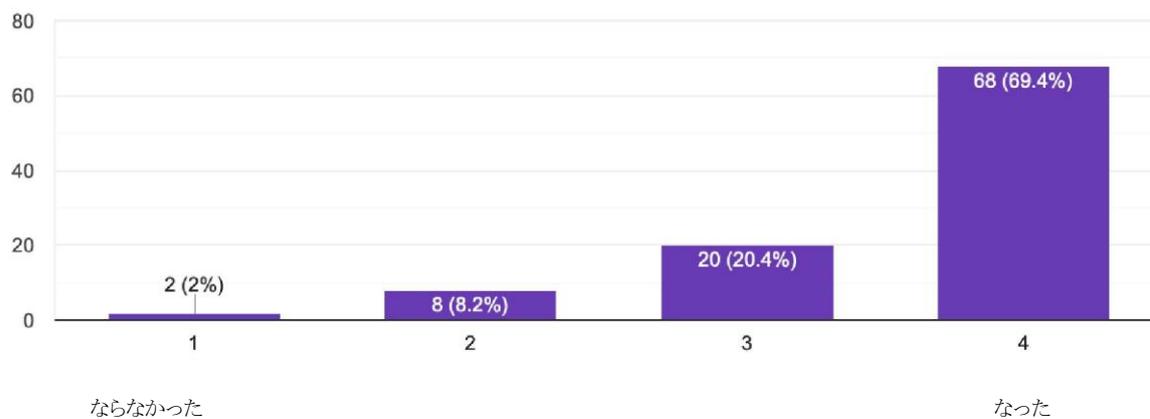
5. これまでの働き方を変えたいという気持ちが高まりましたか。

98 件の回答



6. 研修を受けて、やるべきことが明確になりましたか。

98 件の回答



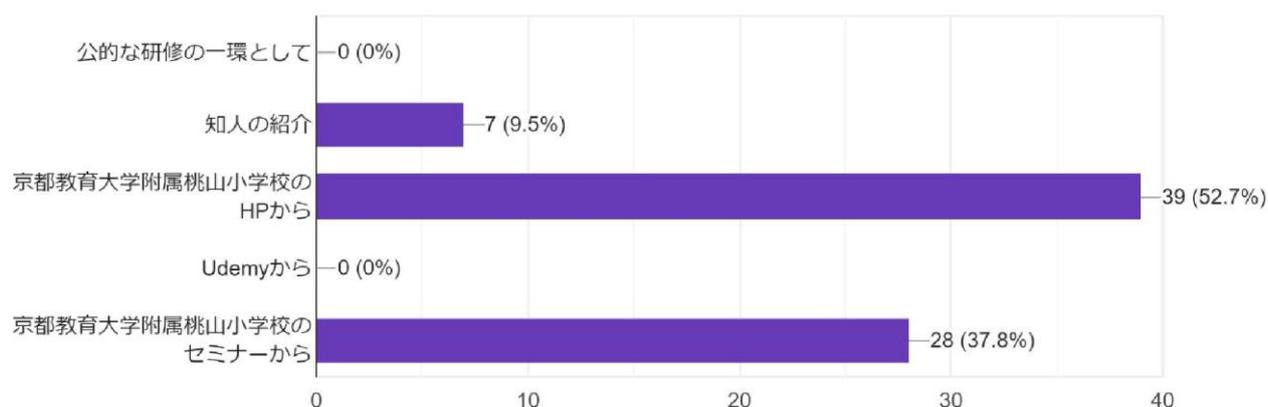
7. さらに知りたい内容はありますか。自由にお書きください。

方向性はわかりました。実際できるところからやらねばと思いました。教師の常識が社会では違うことに気づかなければ働き方改革は進まないと思いました。仕方ないでは変わりませんからね。ありがとうございました。

動画内容に関連した質問

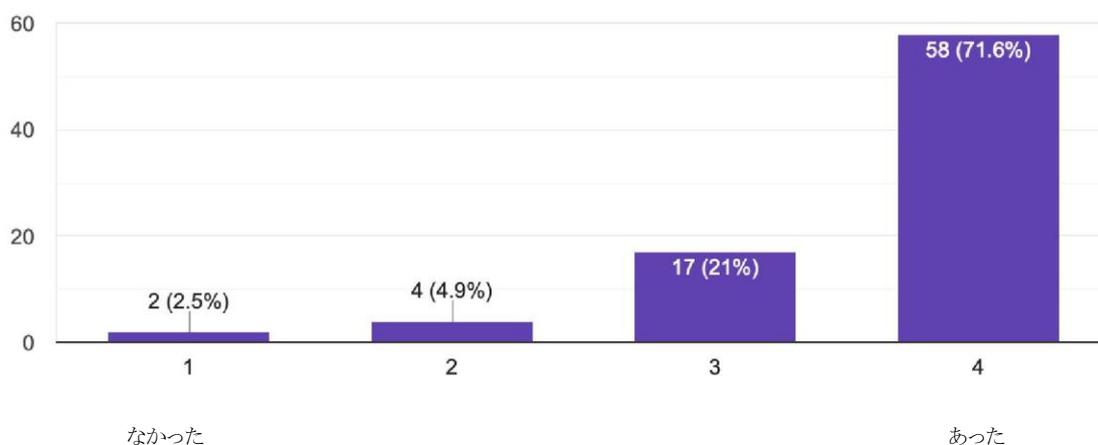
1. 本動画を見たきっかけは何ですか。

74 件の回答



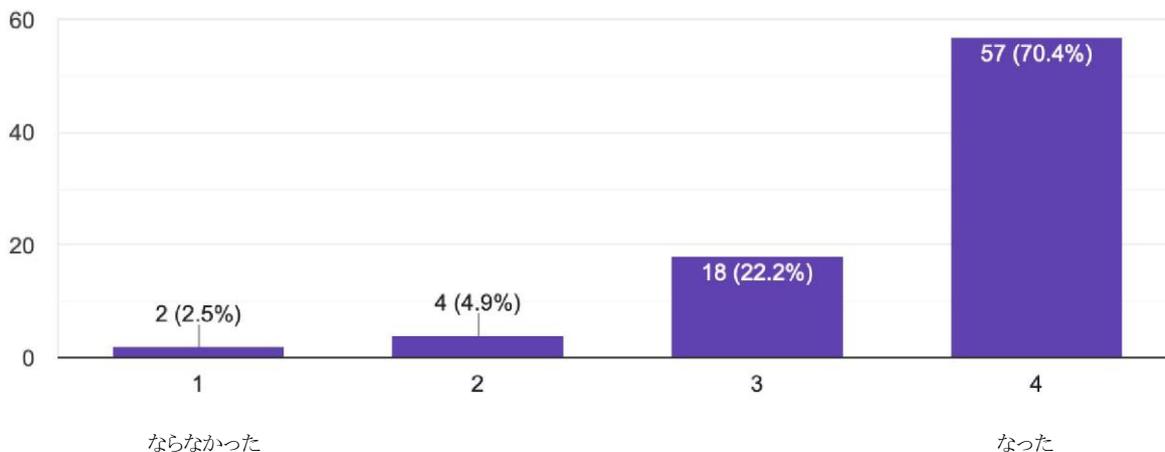
2. 本動画を見て、働き方の参考になる内容がありましたか。

81 件の回答



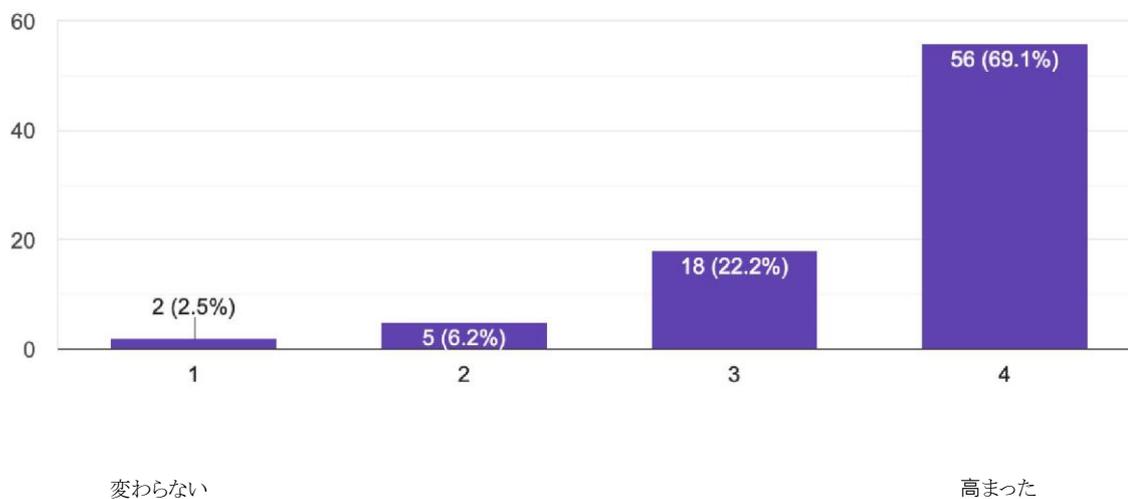
3. 自分の働き方を見直すきっかけになりましたか。

81 件の回答



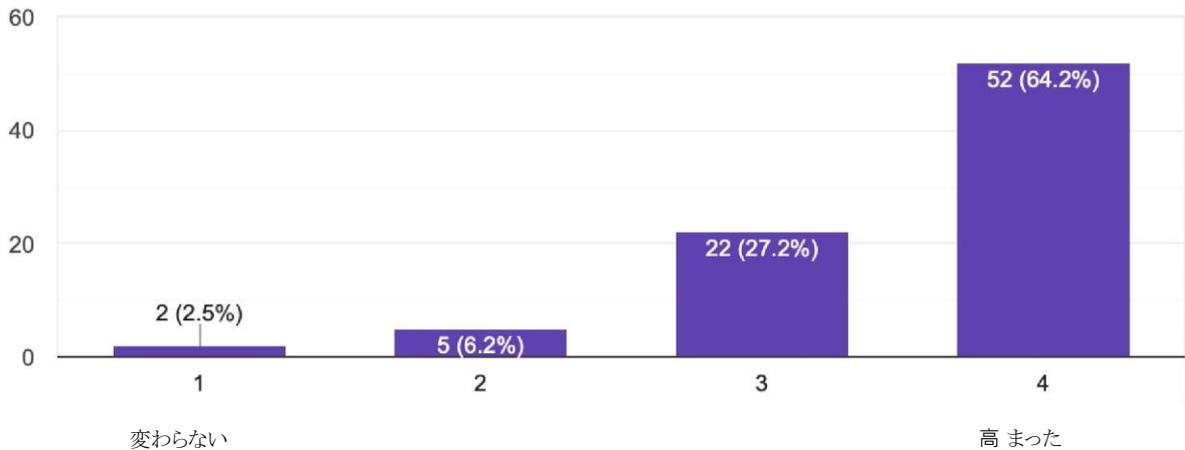
4. 本動画を見て、さらに研修・研鑽を積んでいきたいという気持ちが高まりましたか。

81 件の回答



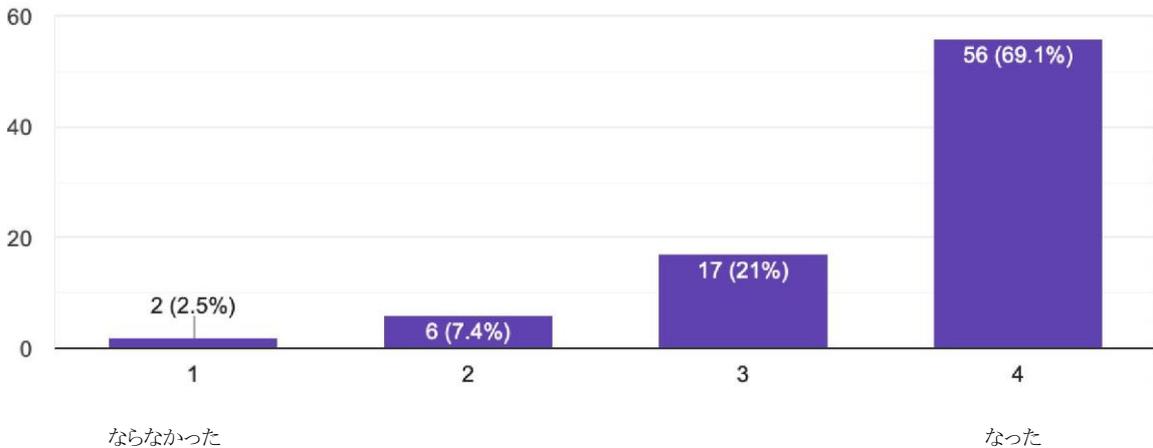
5. これまでの働き方を変えたいという気持ちが高まりましたか。

81件の回答



6. 研修を受けて、やるべきことが明確になりましたか。

81件の回答



7. さらに知りたい内容はありますか。自由にお書きください。

回答なし

動画内容に関連した質問

①保護者連携で、欠席連絡や時間割の伝達など、簡単にできればいいと思うことはあ

りますか。

個人懇談などの日程調整やパトロールなどの募集など

②保護者との連携で実際にやっている工夫はありますか。

連絡帳などでのやり取り

③地域連携をとっていくとしたら、どのような職種の方と子どもたちを出会わせたいと考

えますか。

警察官など普段から目にする事ができる職種から、普段の生活の中では知ることのない職業など幅広く知ってほしいと思います。

④先生ご自身や、学校として、地域とのつながりをもつために、している工夫、した方がよい工夫がありましたら、教えてください。

回答なし

⑤調べたデジタルコンテンツ・デジタルミュージアムのリンクを1つ以上貼ってください。

回答なし

⑥そのコンテンツをどのように活用しようと考えていますか。

回答なし

6.開発プログラム実施による成果と課題

新しい生活様式が求められる社会情勢の中、オンラインで学べる研修動画はかなりの需要があった。3つの動画の視聴回数を合計すると500回を越えている。(3月1日現在)GIGAスクールが実施される状況を目前として、ICTを活用して教員の資質・能力が向上している京都教育大学附属桃山小学校の具体的な事例は、視聴者に多くの刺激を与えた。しかし、学校全体が変わることを求められている中で、一教員としてはどうしようもないという意見も聞かれた。管理職や教育委員会などの組織の意識改革も求められるだろう。

また動画での研修であるため、まだまだ自治体などの正式な研修としては組み入れにくいのが現状である。動画を用いてリアルな研修をするなど参加者により効果があるような体制も必要である。

7.年間での研究の総括、今後の展望

今回は、研修動画を作成するという初めての試みを行なった。企業として多くの知見をもっているグーグル合同会社と協力することで、教育の立場ではない、企業としての視点を取り入れることができた。3つの動画を作成したが、かなりの成果を上げることができたので、今後は授業に関する動画の作成やハイブリッド型の研修などを企画して実施していきたいと考える。ま

た、時代は急速に変化しているので、今回作成したコンテンツもさらにブラッシュアップして教員の資質・能力がさらに向上するようなものにして再リリースしていきたいと考える。

8.おわりに

今回、教員の資質・能力を向上するための動画を作成するにあたり、東京学芸大学高橋純氏、グーグル合同会社の方に協力していただいた。感謝をお伝えするとともに、来年度以降も日本の教員のために継続した研究をお願いしたい。

9.巻末資料

【業務の効率化台本】

担当	台詞	画面
-	アイキャッチ	講座タイトル
A	<p>【概要】</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>京都教育大学附属桃山小学校の A です。</p> <p>画面のようなタイトルでお話をさせていただきます。</p> <p>この動画をご覧になって、これらのようなことに少しでも興味を持っていただき、皆さんの学校で活用していただくことができればと考えています。</p> <p>全体的な構成としては、1つの大きな括り、小さな4つの括りです。</p> <p>ペーパーレス データ共有 一人一台 PC オンライン授業</p> <p>です。</p> <p>これらを導入しながら、かつ、少しでも「業務の効率化」について検討していただければと考えております。</p>	<p>画面を切り返えて開始(ここから撮影データを挿入)</p> <p>左上に</p> <p>ペーパーレス</p> <p>データ共有</p> <p>一人一台 PC</p> <p>オンライン授業</p> <p>とメニューを挿入</p>

【ペーパーレス】

・伝えたい考え方

ペーパーレス

新型コロナウイルス

民間企業との比較

早速ですが、皆さんの学校では「紙」をたくさん使っているのではないのでしょうか。

週案、職員会議資料、学級通信・学年通信、学校便り、出席簿、成績データ…

本校でも同様でした。

紙の方が安心、早い、そして慣れている。

従来使ってきた紙への絶大な信頼があり、ずっとこの形でした。

デジタルでの書類は検索できるよ、無くさないよ、こっちの方が安心だよ…そのような声を何十回と聞いてきました。しかし、そこに係る労力がしんどい、そもそもする必然性を感じない。様々な理由をつけて完全無視の状態でした。

本校は、まだまだではありますが、今でこそICT教育のトップランナーを目指し、授業でも事務でも業務に関する様々な実践に取り組んでいます。

その中でペーパーレス化も一定できるようになってきました。

しかし、わずか5年前までは、ほとんどのデータが紙処理によって行われていました。

この変革のきっかけは、**タブレットを学校に導入**したことが1つ、もう1つはリスクへの対応(強調)でした。

紙データのリスク、そして、それを印刷するためのUSBメモリなどの記憶媒体によるリスク。

これは危ないのではないかと、という危機感を持ちました。

それを検証するため、一般企業などの情報漏

左上にペーパーレスとテキストを挿入



引用:『2018年 情報セキュリティイン

シデントに関する調査結果個人情報漏えい編(速報版)』NPO日本ネットワークセキュリティ協会

※データ画面のアップ、もしくは差込予算に応じて写しっぱなしでも大丈夫です。

洩について調査をしたところ、紙データが持つ、大きなリスクについて実感しました。

こちらをご覧ください。

わかりやすく、ペーパーレスとそれまでの情報漏洩の種類と件数を示したものです。

情報の質・中身としては、学校の持つ情報だけが漏れてはいけない情報なのではありません。

企業では億・兆単位の金額を持った情報、命や病気に関するデータを持った情報、家族関係などを保有する情報。

それぞれに漏れてはいけない理由があり、守らなければいけない理由があります。

リスクを考えた上で、それらの企業はどうしたか。

紙を捨てつつ、あります。

いわゆるペーパーレス化です。

その数値も見てみましょう。

(一般企業のペーパーレス化

10年前、5年前、直近のデータです。

グラフから次のようなことがわかります。紙を捨てるという選択肢を多くの企業が取り始めているということがわかります。

新型コロナウイルス対応によって、このペーパーレスの動きはこれまで以上に加速をしていくことが予想されています。

いくつかの理由がありますが、大きな理由として挙げられるのが、①双方向性を担保したオンライン学習ツールの一般化、②保護者と学校をつなぐツールの導入、③ハンコを押すという行政ルールの簡略化への動きなどが挙げられます。

※
データを写す

JPA Ⅲ. 2020年 主要品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計



引用：『2020年 紙・板紙内需試算報告』日本製紙連合会

緊急事態宣言中に、数日おきに家庭訪問を繰り返し、学習プリントを配布・回収し、ひたすら丸つけを進め、それを授業の代わりとしていた学校は多かったのではないのでしょうか。

これですが、もう一度、万が一緊急事態宣言のようなことが起きてしまって、その時に何も対応しておらず同じことを繰り返してしまって大丈夫でしょうか。

来年以降の数年後、今回の出来事が検証された際に「結局、教育現場は何も変わらなかった」で大丈夫でしょうか。

一般企業どころか多くの家庭でも、双方向性を担保した動画アプリを活用しているのにもかかわらず、紙媒体を配り歩く教員。

他の自治体・教育委員会・学校ではアプリを活用している。

説明しきれません。

学校からのメール配信、連絡プリントのデータ送信、学習プリントの双方向やりとりなど、ペーパーレスに関する何かしらの対応が求められることになるかと思います。

でも、できない理由は山ほどあります。

一つの学校ではできることに限りがある…やっ
て良さそうな雰囲気もあるが、一部の先生の強い抵抗がある…こうした流れは、どこの学校でもあります。

ITを導入する前の民間企業でも同じ話です。

このような中、今の状況で何ができるかを考えることができれば、それだけでも変わるきっかけになるかと思います。

ここまでで「ペーパーレス」の話はおわりです。

こうした小項目ごとに何箇所かアンケート項目があります。例えば、このパートでのアンケートは3つです。

	<p>①みなさんの学校ではペーパーレスが導入されていると思いますか。</p> <p>②学校で導入されている要因や導入されていない阻害要因は何だと思いますか。</p> <p>③もし学校にペーパーレスが導入できるとしたら、どのような点から始めるとよいと考えますか。</p> <p>これはみなさんを評価するためではありません。</p> <p>2つの理由があります。</p> <p>1つは、ご自身が所属する学校での現状を把握していただくこと。</p> <p>もう1つは、こうしたデータを蓄積し、シェアすることで、役に立つデータとして、皆さんと共有することです。</p> <p>これがみなさんの学校を変えるきっかけになればと考えています。</p> <p>というような感じで、これから学校における業務の効率化をICTの観点をメインにお伝えしていければと考えています。</p>	
A	<p>【データ共有】</p> <p>・伝えたい考え方</p> <p>クラウド</p> <p>セキュリティ</p> <p>さて、ペーパーレスのような考え方を導入しようとすると学校の中で最も話に挙がるのが「セキュリティが心配」という話です。</p> <p>先ほどの「リスク」の話ともかぶるのですが、この部分をもう少し検討していきましょう。</p> <p>この話をするとき一緒にした方が良いのが、クラウドです。</p> <p>「クラウド」と「セキュリティ」です。</p> <p>クラウド。</p> <p>言葉で聞いたことがあっても、これって説明するのが難しいですね。</p> <p>でも、これはこの動画を視聴している全員がほ</p>	<p>左上に「データ共有」と挿入</p> <p>※話の重複について要整理</p> <p>要コンテンツ</p> <p>クラウドの1パーツとしてセキュリティを入れた図 (多分こういう図がどっかにあります)</p> <p>クラウドを使ったシステムを列挙したコンテンツ</p>

ば間違いなく使っています。

LINE、Gmail、YouTube、写真や電話番号のバックアップ、インターネット検索やそのお気に入り

これら全てがクラウドを使ったサービスです。

皆さんはこれらを「危ない」から使わないという選択肢を取っていますか。

LINE の代わりに手紙を使う。

写真を送るのに現像をする。

ネット検索の代わりに図書館へ行く。

どうしても手紙でなければ、現像しなければ、初期段階から図書館でなければならない時、これは現在ほとんどありません。

となると、クラウドを使ったサービスに皆さん毎日のように触れている状態になっているということです。

こういった前提でみなさんのスマホデータ。

周りの友達や家族、もしくは第三者に全て公開されたり、盗まれたりしてしまっても大丈夫でしょうか。

いや、まずいぞ、というデータもあるのではないかと思います。

となると、みなさんのスマホセキュリティはどのようにされていますか。

一般的なものだと、

- ・パスワードの入力
- ・指紋認証
- ・顔認証

などを使って、中のデータが見られない、触れないようにしているのではないのでしょうか。

学校で扱う会議資料データや個人情報関連データ、保護者とのやり取りで送受信するデータも

考え方としては同様になります。

しかし、セキュリティが突破される、つまりデータが盗まれる、というのは、基本的には機械やシステムが原因となって起こることは稀です。

ほとんどが人為的なミスによって起こります。

ロックのかけ忘れ、パスワードを何かにメモして置いて、それを落とした、悪意のある方にデータを渡してしまった。

セキュリティの細かい部分についてや、その対応策については、他の動画に譲りますが、原則、人為的なミスが起きにくいルール付けをすることが大切になります。

さて、そう言った中で、データ共有が行えることになりました、と仮定します。

「クラウド化」という言葉を使うこともあります。これができるようになると、何ができるでしょうか。

例えば、皆さんが使っているもので解説すると「スマホやタブレットなど様々な端末でLINEを見るように、学校に関する様々な資料を閲覧、書き込みをすることが出来る」ということです。

閲覧をしたり、書き込みをしたりするための、時間や場所の自由度が上がります。

紙媒体だとそばにそれ専用の書類がなければいけなかったものが、不要になります。

使うアプリによっては、それに書き込みをすること、他の先生にそれを送付すること、なども可能になります。

こうした考え方は、よい方向にも、悪い方向にも捉えることができます。

よい方向でしたら「教室でも職員室でも校外学習や修学旅行でも、必要に応じては自宅でも、必要な情報を閲覧することが出来るのは便利

<p>だ。仕事をする必要があるときに時間と場所を選ばずに出来るのは楽だ」と言ったものです。</p> <p>しかし、これ、同時に悪い方向にも捉えられます。「自宅でも出来るということは、自宅でもやれということか。現状よりブラックになるだけじゃないか。」と言ったものです。</p> <p>そうした時に、考える必要があるのがルール付けです。</p> <p>学年で、学校でLINEグループを作っているところもあると伺ったことがあります。本校でもあります。そうした中でのルール付、あるでしょうか。休みの中でも平気で管理職が返信を求めてくる。これは、もうただブラックですよ。私だったら返信しませんけど。でも、若い先生だったら、そうもいきません。そういった中でのルール付と同じように、データ共有には一定の決まりを作る、それを定期的に年度末などに確認するといったことが求められるのかもしれないと思います。</p> <p>2項目です。</p> <ul style="list-style-type: none">・学校で公式・非公式に使っているクラウドシステムはありますか？ <p>LINE</p> <p>Googleドライブ</p> <p>Box</p> <p>DropBox</p> <p>iCloud</p> <ul style="list-style-type: none">・もし今学校に好きなようにデータ共有ができるようになったら、どのような使い方をしてみたいですか？ <p>自由記述</p>	
--	--

<p>【一人一台PC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・ルール設定 ・具体的な使い方 <p>皆さんの学校には「一人一台端末」が入ったでしょうか。</p> <p>GIGAスクール構想の中で、この文言が次のように入っています。まだ導入していない学校も遠くない未来に、現実的に、ほぼ間違いなく端末が入ってきます。</p> <p>実際に入ってきた時に、「授業で使いこなすことができないから使わない」という選択肢はこれから先取りにくくなってきます。</p> <p>それは、これから端末が、鉛筆・消しゴム・定規のような筆記用具と同等のものとして使われる時代が目の前にきているからです。</p> <p>例えば、皆さんご自身が出かける場面を考えてみましょう。出かけるときにスマホを置いていくの方が今は少ないですよ。仕事でも同じです。文書はパソコンを使う、学級通信もパソコン、年賀状も何かしらのソフトを使って…手書きの方が圧倒的に少ない社会になってきています。</p> <p>そういった時、例えば基礎的な文字打ち、いわゆるタイピングですね。これはいつ子どもたちに学ばせるのが適切でしょうか。また、写真を撮る、データを送る、物事をデジタル機器を活用して思考表現させる。これらも同じです。</p> <p>デジタルネイティブといわれる生まれた頃からスマホやタブレットがある子どもたち。2歳、3歳の頃から当たり前に関のスマホやタブレットを使ってYouTubeを見ている子どもたちです。しかし、学校では公式にそういうことを教えられずに教育を受けていく。</p> <p>これは流石に不自然なことになってきました。</p> <p>そういったデジタル機器が使えるということが当たり前の中になってきます。</p>	<p>左上に「一人一台PC」と挿入</p> <p>画面を写す</p>
--	------------------------------------

この状況が他国と比較して著しく遅れていると

いう現状もあります。

それに関する表があるので見てみましょう。こ

ちらです。

学校教育の中でどのくらい端末が使われてい

るかを示した表です。

これが意味するものは何か。

様々なことが考えられますが、一つ大きく言え

るだろうことは、「日本が先進国から脱落する」と

いうことです。世界標準で使用されている機器に

も関わらず簡単に扱うことができない、そこそこ

の年齢から学ぶことを強えられる。これには、そ

れだけのデメリットがあります。

そうしたときに、この一人一台端末が救いとな

るのか、否かというのは大きな分かれ道になる

のではないかと考えられます。

とはいえ、これも導入後、授業内外で、いくつも

の障壁が考えられます。

実際に本校で起きた事象から紹介します。

- ・充電の横取り

誰がどのコードを使うのか、決めておいた方が

トラブル発生件数が少ないです。

- ・休み時間の端末使用による学習外使用

画面を出す

画面に出す

<p>失敗をしながら学ぶ、これは、従来の学校でも全く同じなのではないかと思います。</p> <p>さて、端末の具体的な使い方についてです。実際に5つの場面をみていただきながら、スタート時の使い方について情報をシェアできたらと思います。</p> <p>今回紹介するのは、次の5つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①発表をする(写真を撮る) ②調べ物をする(検索) ③感想を書く(文字を打つ) ④データを共有する(クラウドの利便性) ⑤思考を整理する(シンキングツール?) <p>こうした学習内容を本校では、MC(メディアコミュニケーション)科という「教科」として、系統的に学習することを試みています。</p> <p>皆さんの学校では、もちろんこれの通りにやらなければいけないというものではありません。基本的な学習の順序自体は本校のMC科と大きく変わらないとは思いますが、各学校に合った形にカスタマイズして、活用いただければ嬉しいなと考えております。</p> <p>さて、またここまでで2つについて回答をいただけたらと思います。ちょっとお手間かとは思いますが、ホームページなどを通じて、フィードバックをしていく予定ですので、ぜひご協力をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で必要になるだろう端末使用に関するルールを記載してください。 ・実際に授業で活用する場合には、どのような教科や領域のどのような場面で使ってみたいですか。 	<p>動画を写します</p>
---	----------------

<p>【オンライン授業】</p> <p>緊急事態宣言からオンライン〇〇というものが爆発的に増えました。</p> <p>オンライン会議</p> <p>オンライン面接</p> <p>オンライン飲み会</p> <p>オンライン</p> <p>※3例程あげてください。授業以外。</p> <p>そのうちの 하나가「オンライン授業」です。</p> <p>これも実は近隣諸国の中では最下位の実施率でした。</p> <p>コロナへの対策が一定落ち着いてきましたが、これでオンライン授業そのものも消滅していくでしょうか。</p> <p>これは、一定研究が進んでいく分野ではないかと言われています。</p> <p>国として少子化が進み、児童生徒の数が減ってきています。地域間格差も広がり、人が密集するところといなくなる場所が出てきます。</p> <p>そう言ったときに全てを対面で行わない方が効率的だという考え方があります。</p> <p>また、授業そのものの教える内容についても、よりプロフェッショナルから教えてもらった方が楽しくみになる、という考え方もあります。</p> <p>とある予備校などでは、そう言った考え方のもとでかなり昔から講義が実施されています。</p> <p>公立学校で行われる授業がそのまま当てはまるとは思っていません。しかし、一部導入というのは可能性として十分考えられるものです。</p> <p>となると、オンライン授業でゼロからどのように授業と言われる形態へ変化していくのか、どのようなオンライン授業が行われているのか、と言ったことはいくらかでも知っておいた方がよいかと思えます。</p>	<p>左上に「オンライン授業」と挿入</p>
---	------------------------

授業というものが成立していきます。

最初の「オンライン朝の会」を終えて、実際の「オンライン授業」へと進んだ動画もご覧ください。

画面共有や発表なども、繰り返すことによって、スムーズに行っていくことができるようになっていきます。

対面の、いわゆる今まで普通に学校で行ってきた授業とオンライン授業。

本校では、オンライン授業を低学年はGWまで、4～6年では1日置きで9月末まで実施しました。そう言った中でのメリット・デメリット皆さんの学校で、即時にオンライン授業を実施する、継続してオンライン授業を実施する。こういったケースはそんなに多くはないと思います。

しかし、です。視野をもう少し広げて考えると様々な考え方が可能になります。

例えば、会議で導入することは可能ではないでしょうか。

他校も含んだ行事の日程や内容調整の会議、毎年夏休み中に行われる校内研修会。

これらのものが一部でもオンライン授業のように行うことができたならメリットがあるのではないのでしょうか。

通勤時間は削減されます。

会議そのものの時間の拘束だけで済みます。

こういった働き方改革の一面だけではなく、対児童や対生徒ではないため失敗をする、スキルアップをすと言った経験値をあげることもできます。

業務改革に繋がる部分が出てくる可能性があるのではないかと思います。

【まとめ】業務の効率化

これで動画は終了です。

「業務の効率化」

いかがだったでしょうか？

できない、やらない、やりたくない。

様々な表現はありますが、それを一歩超えると、より短時間で、より効率的な授業や仕事を進めることができるのではないかと思います。

勤務校である京都教育大学附属桃山小学校も、業務の効率化に取り組み、うまくいった事ばかりではありませんでした。

人的に使いこなせない場合が出てきて研修が追加で必要になったり、せっかく入れたシステムより明らかに便利なものが出てきたり、システムそのものがエラーになり使えない時期が出てきたり、様々な対応が必要になっています。

それでもトータルで捉えると、業務負担量は大きく減ってきています。

現在では、教育実習生を学校として50人以上受け入れる繁忙期を除けば、平均17:30には8割の教員が退勤しています。

いきなり、大きな変革は難しいかもしれませんが、

それでも、小さくてもまず一歩、何かしらの業務の効率化に取り組んでいただければ幸いです。

本動画、最後の回答になります。

皆さんのアンケートへの回答が、次に閲覧する方の参考になったり、動画作成の参考になったりします。

ぜひ、コメントをお寄せくだされば嬉しいです。

・ご自身の学校で「業務の効率化」の第一歩として実施できそうなことを記載ください。

	<p>・ご自身の学校で、このような業務の効率化をすれば、ご自身が助かるなあという事柄をあげてください。</p>	
--	---	--

【クリエイティブな働き方台本】

担当	台詞	画面
-	アイキャッチ	講座タイトル
A	<p>【概要】</p> <p>皆さん、こんにちは。 京都教育大学附属桃山小学校の A です。 画面のようなタイトルでお話をさせていただきます。 この動画をご覧になって、これらのようなことに少しでも興味を持っていただき、皆さんの学校で活用していただくことができればと考えています。 全体的な構成としては、1つの大きな括り、小さな4つの括りです。 時短を促す働き方 経験年数に応じた教師スキル 人間関係・チームづくり 情報共有の方法 です。 これらを導入しながら、かつ、少しでも業務負担が減ることを検討していただければと考えております。</p>	<p>画面を切り返して開始(ここから撮影データを挿入)</p> <p>左上に</p> <p>時短を促す働き方</p> <p>経験年数に応じた教師スキル</p> <p>人間関係・チームづくり</p> <p>情報共有の方法</p> <p>とメニューを挿入</p>

<p>【時短を促す働き方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい考え方 <p>時間以内に効率よく進める</p> <p>デジタル化で時短</p> <p>業務を分担する</p> <p>早速ですが、皆さんの学校では定時に勤務を終えている方は何人くらいおられるでしょうか。</p> <p>教材研究、丸つけ、保護者への連絡、学年会など子どもたちが帰ってからの業務が山積みで定時に帰るなんてできないという方がほとんどではないでしょうか。</p> <p>本校でも同様でした。</p> <p>早く帰ること自体に気がひけてしまうくらい、熱心に業務に取り組めば取り組むほど、帰る時間は遅くなり、休みの日にまで仕事をする教員が多い状況でした。そして、教育界全体にある「子どもたちのために」という大義名分が私たち教員の労働時間をどんどん増やしていきました。</p> <p>本校は、まだまだではありますが、クリエイティブな働き方を目指して、働き方の意識改革に取り組んでいます。子どもたちの前で輝く教師、大人であるためには、仕事に対してへとへとになっている姿ではなく、仕事もプライベートも充実した大人でありたいと考えています。</p> <p>まず、時間以内に業務を効率よく進めるにはどのようにしたらよいでしょうか。まず、退勤する時間を目標として定めることが大切です。何時でも大丈夫となるとそれだけで、時間があっという間に過ぎていきます。</p> <p>次の資料は、本校の一般的な教員の1日の働く姿です。</p> <p>1日の働く流れのスライド(2～3分)</p>	<p>左上に</p> <p>時短を促す働き方</p> <p>とテキストを挿入</p>
---	--

<p>本校の教員の働き方を見てどのようなことを感じられたでしょうか。まず、朝は児童の健康観察や欠席児童とのやりとりを電話ではなくアプリを使って行なっています。記録として残ると同時に電話対応の時間の軽減にもつながります。</p> <p>授業もデジタル上で教材をつくっています。授業の中におけるICT機器の活用についてはまた別の動画でご紹介する予定ですので、ここでは詳しく話すことを省きます。</p> <p>次に、授業や家庭へのおたよりもデジタル化されているので、印刷などの労力が最小限で済みます。</p> <p>会議ではあらかじめ議事録がクラウド上に挙げられていることで、書類を配付することなく、スムーズに行うことができます。放課後も18時には留守番電話になります。緊急時以外は時間を設定して電話対応にあたっています。</p> <p>次に業務の分担です。学級の児童を一人の教員だけで見るのではなく、複数の教員で学習にあたっています。これは業務の負担軽減という観点だけではなく、子どもたちの変化や成長を多くの眼で見守るという良さがあります。例えば、書写、体育、音楽などです。高学年になると、専門性の高い、家庭科や図画工作などが含まれます。高学年は教科担任制に移行する方針（要出典）です。このことは、業務の負担軽減と多くの眼で子どもたちを育てることが推進されているからではないでしょうか。</p> <p>授業を担当しなくてもスクールサポーターの学生や地域のボランティアの方に、様々な面で助けられています。</p> <p>自分一人で抱え込むのではなく子どもたちをみんな育てるという観点からも多くの人と業務を分担し、働いていくことが大切です。</p> <p>ここで一つ目のアンケートです。皆さんの勤務校</p>	<p>1日の働く流れのスライド</p>
--	---------------------

でされている時短を促す働き方や効率化のための工夫をぜひ教えてください。また、負担がかかっている業務についても記述していただけるとありがたいです。お手間かとは思いますが、ホームページなどを通じて、意見を共有し、フィードバックをしていく予定ですので、ぜひご協力をお願いします。

【経験年数に応じた教師スキル】

- ・校内での役割
- ・少しゆとりが出てきたら
- ・教えたり、教えられたり

教師は担任として1年目からベテランの先生と同じ量の仕事をします。自治体によっても異なりますが、初任時は指導の教員がつくことや初任者研修などで教師としての働き方をサポートしてもらいます。初任を過ぎると自分自身で教員としての資質・能力を伸ばしていくことになります。研究会に入ったり、書籍を読んだり…。みなさんほどのように自分自身の資質能力を伸ばしておられるでしょうか。

もちろん、本研修もみなさんの資質・能力を伸ばす研修の一つとなっています。

研修自体が負担にならないように、本研修のような時間や場所を問わずに参加できることで、経験年数に応じた資質や能力を効率よく伸ばせるのではないのでしょうか。また、他の先生方がどのように自己研鑽をおこなっているかということはあまり知られていないのではないのでしょうか。ここで

SNSやオンライン研修の例

【人間関係・チームづくり】

- ・コミュニケーションの基本はこまめなやりとり

・情報共有の大切さ

・みんなが一丸となるために

チーム学校と言われ始めて数年が経ちましたが、皆さんの学校はいかがでしょう。学年、教科はまとまっているけれどそれ以外は……。ゆっくり話したいけれどみんな忙しそうだし……。そんな声が多く聞かれます。もちろん、直接話ができればそれに越したことはないのですが、私たちは共有のクラウドを使うことで空間や時間をこえて同じ課題や問題の解決に取り組んでいます。クラウドを使うことによって伝えたいことや一緒に検討したい書類をいつでも、どこでも見ることができます。私たちの学校でも18時ごろに緊急事態宣言が出て、休校が決定された際には、意見や考えておかなければならないことをクラウド上のノートを使ってやりとりをしました。

Boxノートの画像

これは、誰が何を書いたのかが履歴として残るだけでなく、リアルタイムで更新されることで同じ空間にいなくてもコミュニケーションをとることができます。

他にも緊急時にはzoomやGoogleMeetなどを活用し、こまめに会議を開きました。学校にいなくても必要に応じて短時間のオンライン会議を開き、コミュニケーションをとりました。実際に会議にリアルで参加している人とオンラインで参加しているハイブリッド型の会議の状況もありました。

とはいえ、急な会議などには参加できない人もいます。その場合は、会議の議事録をクラウド上に残しておくことで参加していない人も会議のメンバーでない人も内容を知ることができます。

この情報共有は生徒指導などの子どもの記録にも活用されています。配慮すべき事項や子どもたちの成長の足あとがクラウド上で共有されることで去年の指導だけでなくこれまでの教員が行ってきた支援や指導の経歴を見ることができます。学年間の接続をスムーズにすることはもちろ

	<p>んのこと、過去の資料を元にして旧担任とその子の指導について情報を共有して話しをすることができます。</p> <p>同じ方向を向いて、進んでいくということがチームとして大切なポイントではないでしょうか。</p> <p>ここで二つ目のアンケートです。みなさんが、チームとしてまとめ、人間関係をよりよくするためにされていることは何でしょうか。あいさつやこまめな声かけなどすぐにできるアイデアでも構いません。ぜひ、教えてください。</p>	
A	<p>【情報共有の方法】</p> <p>デジタルとアナログの併用</p> <p>様々な共有ツール</p> <p>最後のセクションは先ほどの人間関係にも関連しますが、情報共有の具体的な方法です。情報共有をしっかりとこなうことで人間関係もスムーズになります。逆に自分だけが知っていない情報があると不安感や不信感の種につながってしまいます。ここでは、本校でおこなっている具体的な情報共有の方法についてお伝えします。</p> <p>私たちは1日の予定を朝の職員会議で顔を合わせて集まり、5分ほどで簡単に確認します。職員室に書いてあるホワイトボードが1日の重要な予定です。</p> <p>次に一週間の予定です。あらかじめ管理職が作成し、クラウド上にアップすることで一週間の見通しをもち、職務にあたることができます。</p> <p>月間や年間計画は変動する可能性があるもので、クラウド上で確認し、変更などが随時反映されます。</p> <p>1日の流れ、一週間の流れ、学期や一年の流れなどデジタルとアナログを併用しながら情報の共有をおこなっています。個人がもっている予定表は本校の教員が作成した本校のオリジナルの予</p>	

	<p>定表です。アナログとデジタルのよさをつかうことで、情報の抜けがなく業務をおこなうことができます。</p>	
--	---	--

桃小版働く教員の一日台本

担当	台詞	画面
-	アイキャッチ	講座タイトル
A	<p>【概要】</p> <p>それでは、本校の一般的な教員の1日の働く様子を見てみましょう。</p>	<p>画面を切り返えて開始(ここから撮影データを挿入)</p>
	<p>【概要】</p> <p>働く教員の一日</p> <p>子どもたちを余裕を持って迎えらるよう、8時前には出勤をします。</p> <p>8時ごろ、子どもたちから朝の体調の様子や検温の結果が送られてきます。体調を崩している子どもがいないか、入念にチェックします。</p> <p>8時半には、全教職員が揃い、一日の予定を確認します。</p> <p>ホワイトボードを活用することで、短時間で正確な打ち合わせを行うことができます。</p> <p>9時になりました。続々と子どもたちが登校をしてきます。子どもたちの明るい様子を見ると、安心します。</p>	<p>教員が登校するシーン</p> <p>健康観察のチェック・入力</p> <p>全職員打ち合わせ</p> <p>児童登校</p> <p>朝の会</p>

<p>9時15分、子どもたちが揃い、学級での一日のスタートです。</p> <p>朝の会では、声を揃えた元気な挨拶を大切にしています。</p> <p>9時25分から一時間目の授業が始まります。</p> <p>本校では、PCや電子黒板を用いたICT教育も、授業の中で幅広く実践しています。</p> <p>4時間目が終わると、子どもたちと一緒に給食の配膳に取りかかります。</p> <p>アレルギーの有無や食べられる量に注意しながら、協力して効率よく進めます。</p> <p>13時半になると、子どもたちはグループに分かれて掃除を行います。</p> <p>縦割りでグループ編成されているので、6年生を中心に、子どもたちが主体的に進めることができます。</p> <p>13時55分から、5、6時間目の授業を行います。</p> <p>写真は、子どもたちがグループ活動を行っている様子です。</p> <p>15時半、帰りの会での様子です。</p> <p>一日の学級生活を終え、子どもたちは開放感に溢れています。</p> <p>16時半までの時間は、補習や保護者への連絡にあてます。</p> <p>家庭との連携は、教育活動の充実には欠かせません。</p> <p>16時半、子どもたちの完全下校の時間です。</p> <p>子どもたちが帰った後は、テストの採点や教員間での打ち合わせなどを行なっています。</p> <p>18時、学校での仕事を全て終え、退勤します。</p>	<p>授業</p> <p>給食指導</p> <p>清掃指導</p> <p>授業</p> <p>終わりの会</p> <p>放課後業務</p> <p>退勤</p>
---	---

外部との連携台本

担当	台詞	画面
-	アイキャッチ	講座タイトル
A	<p>【概要】</p> <p>みなさん、こんにちは。</p> <p>京都教育大学附属桃山小学校の A です。</p> <p>画面のようなタイトルでお話させていただきます。</p> <p>この動画をご覧になって、これらのことに少しでも興味を持っていただき、みなさんの学校で活用していただくことができると考えています。</p> <p>外部との連携が重要だ、 社会に開かれた学校づくりだ、 できるだけ外部と連携して仕事をするべきだ、 そう言った声を多く聞くようになりました。</p> <p>外部との連携とは、具体的には次のようなものを指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・企業のゲストティーチャー ・博物館・水族館・美術館等のデジタルコンテンツ <p>しかし、これ、本当でしょうか。</p> <p>次のような声も多く聞くような気がしませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の方との調整は多くの時間がかかり煩雑だ。 ・お金もない中で外部連携しようとする、こちらも負担だし、相手にも負担をかける。 ・外部の方と何らかのトラブルを起こし、結局、連携自体が消滅した。 <p>どうしたら外部連携がうまくいくのか、私たちの学校や様々なデータから調べた情報をもとに、この動画をお送りしていきたいと思います。</p>	画面を切り返して開始(ここから撮影データを挿入)

<p>【外部との連携】</p> <p>・保護者との連携</p> <p>早速ですが、まずは保護者との連携についてです。</p> <p>皆さんはどのようにつながっていますか？</p> <p>正直、保護者との接続と言われても、なかなかつながっていないよ、とおっしゃる方は多いのではないかと思います。</p> <p>私もです。</p> <p>しかし、それじゃあ、まずいなという気持ちもあります。</p> <p>ということで、まずは現状のピックアップをしてみました。</p> <p>学級担任として、私「から」2020年9月に保護者に連絡した回数と媒体です。</p> <p>新型コロナウイルスの関係で、実際に会ってというのはできませんでしたが、これは他の学校でも同様かと思っています。</p> <p>回数としましては、</p> <p>欠席対応 3回(電話)</p> <p>登校指導1回(電話)</p> <p>これだけでした。</p> <p>同じ月です。</p> <p>保護者「から」の連絡に返信や対応をした数です。</p> <p>欠席回答 3回(電話)</p> <p>教材購入相談 2回(電話、ノートアプリ)</p> <p>体温報告 7回(ノートアプリ)</p> <p>合計12回。</p> <p>ノートアプリは、メールのような機能があって、保護者から連絡が届き、それに対応する形を取っています。</p> <p>それでも私から、保護者から、両方合わせて合計16回。</p>	<p>左上に 時短を促す働き方 とテキストを挿入</p>
--	--------------------------------------

多いとは言えないかと思います。

これは多いほどよいではありません。

対応回数が少ないほど、こちらの時間にはゆとりが生まれます。

必要に応じて、必要な対応が取れていればOKということになります。

そこで、内容について分析してみました。

学習相談や生徒指導といった丁寧に対応すべきものもありましたが、ほとんどは欠席連絡や、忘れ物の連絡などの事務連絡でした。

と考えると、本当に必要でしょうか。

ただの事務処理であれば、システムやAIに任せておけばよいです。

もちろん、お家の方と定期的に話しておくことが大切だ、という考えがあるのはわかった上ですが、それ自体がメインではありませんので。

となると、**私たちがやらなければならないのが、子供たちのことを保護者に伝えたり、逆に教えてもらうことです。**

これは重要ですが、ともするとマイナス方面のことばかりになってしまいがちです。

ケンカをした。

ケガをした。

忘れ物が多い。

先生はいいことを伝えたいですし、保護者もいいことを聞きたいですね。

分析をしていく中で、そういった工夫ができないかと考え、次のようなことを実践してみました。

- ・毎日宿題で出される音読カードにちょっと一言を加える
- ・よいこと、がんばったことがあれば、一筆箋を書く
- ・ノートに丸をつける時に、ちょっとしたコメント

<p>それぞれ実物を見てください。</p> <p>次のようなものです。</p> <p>やってみてわかったのですが、こうしたものを使っ</p> <p>たつながりができると、トラブル件数というか、クレーム件数は減ってきています。</p> <p>今後、こうした形のエビデンスが取れたらいいなあ</p> <p>と考えています。</p> <p>皆さんの学校でも、そういったデータが取れたら、</p> <p>ぜひシェアしていくことができると考えております。</p> <p>また、この動画では、アンケートがありますので、</p> <p>ご協力をお願いします。</p> <p>ここでは2つです。</p> <p>①保護者連携で、欠席連絡や時間割の伝達など、簡単にできればいいなと思うことはありますか？</p> <p>②保護者との連携で実際にやっている工夫はありますか？</p>	
<p>【外部との連携】</p> <p>・企業のゲストティーチャー</p> <p>次は、企業のゲストティーチャーです。</p> <p>皆さんの学校では、いつ、どなたが、何のために学校に来られるか、把握しているでしょうか。</p> <p>これ、周囲の学校に聞いてみても、少なくとも「担任」の先生が把握している例が皆無でした。年間行事予定表のようなものがあっても、来校者は記載されていないことはいずれもです。</p>	

です。

こういうものが一覧になっていたら便利では？
と思い、作ってみました。

大まかな日程調整を年度始めや長期休みにしたり、細かな打ち合わせを1ヶ月前にしたり、と言ったことが視覚的にわかるようになります。学校でデジタルカレンダーを活用している場合は、そういうものと合わせると、さらに使い勝手がよくなりそうですね。

さて、そうしたゲストティーチャーを呼んでみたいけれど、なかなかうまくつながらないという先生はいらっしゃいませんか？

これ、難しいですよ。

これ、まずはなぜ呼びたいか、といった目的のところを明確にすると、初めのステップとしてはクリアかと思います。

よくあるのが生活科や社会科、総合的な学習の時間でのゲストティーチャーです。

単元に関わりがあるから、ということで、呼びます。

もっとも来校いただきやすい理由かと思います。しかし、これからはそれだけではない部分でも積極的に呼びできた方が良いかとも思います。

「社会に開かれた学校づくり」という部分です。

世の中には、約28,000(要確認)もの職業があると言われています。

私たち教員が全く知らないような職種もあるわけです。

私たちの中だけの「常識」に囚われて、社会「スーパーマーケット」だから「スーパー見学」「店長の招聘」をすればいい、ではもったいないです。

そうではなく、例えば、スーパーのオープン型冷蔵庫の業者さん、無人レジのサービスマンさん、エコバックを作っているセレクトショップの方、何ていうのも面白いかも…のように考えると、学習の幅も、物事をみる広さもグンと広がるのではないかと思います。

今まできっかけがなかったけれども、そういったきっかけを作った。

そういうことになれば、先生方の担任としての魅力も間接的に上がっていくのではないのでしょうか。

で、そのきっかけです。

結構身近なところにあることが多いです。

こういった企業連携、地域連携が得意な先生方にお話を伺うと「きっかけ」は大きく3つに分けられます。

①保護者

②友人

③馴染みの店

それぞれについてお話させていただきます。

まずは①保護者です。

クラスの子どもたちが家庭の話をするときに職種がわかることがあります。

PTA活動の中でお伺いすることもあります。

参観や運動会などの行事でお仕事の合間を縫って来校くださる場合もあります。

そういったときに、決まり切った挨拶だけをするのではなく、お仕事のことを伺っても良いかと思えます。

個人情報保護法の縛りもあるかとは思いますが、世間話などの延長でそういったことをしても大丈夫な状況や人間関係であれば、可能です。

そういった中で、「もしよかったら子どもたちにもそういったお仕事の話をしていただけますか？」と声をかけてみてはいかがでしょうか。

次に②友人です。

高校、大学時代などのご友人は、様々な職業で働いているのではないのでしょうか。

結婚や子育て、介護などライフステージの変化により、そういった方とも疎遠になりがちな部分はあるかと思えます。

それでも今であれば、インスタグラムや

FacebookといったSNSもあります。

「いいね」一つで、「あなたのことを覚えているよ」

というサインが送れる時代です。

つながりを持ち続け、機会があれば呼んでみるのも、友人関係の継続という意味では悪くないのではないかと考えます。

もちろん、学校にそういったご友人を呼ぶのには抵抗がある方もいるかとは思いますが、無理にとは全く思いませんが、それでも人から頼られれば嬉しいという方も一定はいるかとも思います。コミュニケーションの一環としての選択肢としては、あっても良いかとは思いますが。

そして③馴染みの店です。

馴染みといっても、毎週のように使う居酒屋という意味ではありません。

時々呑み上がりに立ち寄る「うどん屋」

お客さんが来たとき、茶菓子を買う「和菓子屋」

年に一度盆の時期に使う「ろうそく屋」

お参りに行く時の「お寺さんや神社さん」

外で掃除している店主と挨拶する「絵を飾る画廊」

憧れで一個持つために買った「カバン屋」

これらは広い意味では馴染みです(笑)

そういった時に、わざわざ身分や所属を明かして行くことは少ないかと思えます。

プライベートは別だ、みたいな感じですが。

私も基本的には同じです。

でも、時々、面白いところだなあ、面白い店主さんだなあのように思うことはありませんか？

そういう時に名乗ってみると、ちょっと変わります。

「先生」に興味がある方って意外と多いです。

誰にでも小学生、中学生の頃はあったわけですから。

そんな関わり合いの中で、

校区内だったら、また、子どもたちを連れてきてもいいですか？

校区外だったら、また、学校に来てくださいますか。

学習とつなげることは大切ですが、それ以上に魅力ある方と会う、子どもたちに会わせるというのは、極めて重要なことだと思います。

子どもたちは、ほとんどが「先生」になるわけじゃありません。

様々な職業の方達に合わせるという機会を作り、モデルになるような方を教えていくのも大切な仕事だと思います。

こういったことが先にもお話した文科省が言っている「社会に開かれた学校づくり」の中にもありますね。

(根拠提示)

つながりが広がると、そこから次のつながりに広がっていきます。

他校へ転出した時にも広がります。

そのつながりをお仲間の先生に紹介した時も、です。

こういうネットワークづくり、教師は苦手と言われることが多いですが、楽しさの中でぜひ、お若い先生にも挑戦していただけたらと思います。

それではアンケートです。

ここでは、2つです。

①地域連携をとっていくとしたら、どのような職種の方と子どもたちを出会わせたいと考えますか。

②先生ご自身や、学校として、地域とのつながりをもつために、している工夫、した方がよい工夫

<p>ポリタン美術館です。</p> <p>この美術館では所蔵品約40万点をWEBで公開し、画像をダウンロードできるようにしています。「ここまで来て見てください」というのが一昔前の美術館などのスタンスでしたが、今は変わってきています。</p> <p>「人類の財産なのでシェアしましょう。その上で、やはり本物は違います。興味深いものがあれば、ぜひ来館ください」というスタンスです。</p> <p>デジタルミュージアムという呼び方をすることもあります。</p> <p>このような傾向は世界的な流れで、日本でもそうなりつつあります。</p> <p>「自治体名や調べたいテーマ」「博物館・水族館・美術館」「デジタルコンテンツ・デジタルミュージアム」のように検索してみてください。</p> <p>何かしら求めているデータがあるのではないかと思います。</p> <p>子どもたちにも閲覧させよう。</p> <p>ちょっと工夫すれば行けそう。</p> <p>いつか行ってもらいたい。</p> <p>こうした様々な選択肢はちょっとした検索から見えてくるのではないのでしょうか。</p> <p>このパートは短いですが、アンケートも兼ねながら、ぜひデジタルコンテンツを調べて見てください。</p> <p>①調べたデジタルコンテンツ・デジタルミュージアムのリンクを1つ以上貼ってください。</p> <p>②そのコンテンツをどのように活用しようと考えていますか。</p>	
--	--

A	<p>【情報共有の方法】</p> <p>デジタルとアナログの併用</p> <p>様々な共有ツール</p> <p>では、ここからはまとめです。</p> <p>大きく3つの話について、お伝えをさせていただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・企業のゲストティーチャー ・博物館・水族館・美術館等のデジタルコンテンツ <p>です。</p> <p>なるほど、わかった。</p> <p>でも…ってならないでしょうか？</p> <p>ただでさえ、現在の学校業務で十分忙しい。</p> <p>休み時間の確保さえままならない。</p> <p>そんな中で、もう一つ仕事を増やすなんてどうかしている、のような考え方です。</p> <p>これ、私も全くの同感です。</p> <p>スクラップ&ビルドができないのであれば、やらない方がいいと思います。</p> <p>『子どものため』にという大義名分だけで、できる仕事ではありません。</p> <p>短期的には乗り越えられたとしても、長期的には保ちません。</p> <p>業務バランスを取りながら、その中で最大限子どもたちのために何ができるかを考えていく必要があります。</p> <p>デジタル化、ペーパーレス、授業そのものの工夫、事務の軽減、そういった先にあるのが、これらの動画で紹介した魅力的な授業や情報の提供です。</p> <p>工夫自体はもっともっとたくさんの方があるかと思いますが。</p> <p>ICTがより一層身近になる、GIGAスクールが進捗する。</p>	
---	--	--

	<p>工夫次第では、今までの仕事の仕方を大きく変えることができます。</p> <p>そういった中で皆さんとより良い仕事の工夫、より良い授業の工夫が交流できたら嬉しいなと思っています。</p>	
--	---	--

動画閲覧後アンケート

「業務の効率化」

研修動画をご覧になった方へアンケートをお願いしています。

・受講者の方の勤務年数をお教えてください。

初任 2～5年目 6～10年目 11～20年目 21年目以上 退職して再任用である 休職中または退職している 教諭ではない

・校種をお教えてください。

幼稚園・保育園 小学校 中学校 高等学校 大学 特別支援学校

(研修内容について)

1.本動画を見たきっかけはなんですか。

公的な研修の一環として 知人の紹介 京都教育大学附属桃山小学校のHPから Udemyから YouTubeから 京都教育大学附属桃山小学校のセミナーから その他

2.本動画を見て、働き方の参考になる内容がありましたか。なかった 1

2 3 4あった

3.自分の働き方を見直すきっかけになりましたか。ならなかった 1

2 3 4なった

4.本動画を見て、さらに研修・研鑽を積んでいきたいという気持ちが高まりましたか。変わらない 1

2 3 4高まった

5.これまでの働き方を変えたいという気持ちが高まりましたか。変わらない 1

2 3 4高まった

6.研修を受けて、やるべきことが明確になりましたか。ならなかった○1 ○2○3○4あった

7.さらに知りたい内容はありますか。自由にお書きください。

(動画内容に関連した質問)

ご記入いただける内容のみでも構いません。ご協力をお願いします。

- ①皆さんの学校ではペーパーレスが導入されていると思いますか。
- ②学校で導入されている要因や導入されていない阻害原因は何だと思えますか。
- ③もし学校にペーパーレスが導入できるとしたら、どのような点から始めると良いと考えますか。
- ④もし今学校に好きなようにデータ共有ができるようになったら、どのような使い方をしてみたいですか。
- ⑤学校で必要になるだろう端末使用に関するルールを記載してください。
- ⑥実際に授業で活用する場合には、どのような強化や領域のどのような場面で使ってみたいですか。

「クリエイティブな働き方」

研修動画をご覧になった方へアンケートをお願いしています。

・受講者の方の勤務年数をお教えてください。

○初任 ○2～5年目 ○6～10年目 ○11～20年目 ○21年目以上 ○退職して再任用である○休職中または退職している ○教諭ではない

・校種をお教えてください。

○幼稚園・保育園○小学校○中学校○高等学校○大学○特別支援学校

(研修内容について)

1.本動画を見たきっかけはなんですか。

○公的な研修の一環として○知人の紹介○京都教育大学附属桃山小学校のHPから○Udemyから
○YouTubeから○京都教育大学附属桃山小学校のセミナーから
○その他

2.本動画を見て、働き方の参考になる内容がありましたか。なかった○1
○2○3○4あった

3.自分の働き方を見直すきっかけになりましたか。ならなかった○1 ○2○3○4あった

4.本動画を見て、さらに研修・研鑽を積んでいきたいという気持ちが高まりましたか。変わらない○1 ○2○3○4高まった

5.これまでの働き方を変えたいという気持ちが高まりましたか。変わらない○1
○2○3○4高まった

6.研修を受けて、やるべきことが明確になりましたか。ならなかった○1 ○2○3○4なった

7.さらに知りたい内容はありますか。自由にお書きください。

動画内容に関連した質問

ご記入いただける内容のみでも構いません。ご協力をお願いします。

- ①皆さんの時短を促す働き方や効率化のための工夫を教えてください。
- ②「教師の働く一日」の動画からもっと解説してほしいポイントがあればお書きください。
- ③皆さんの学校や職場で現在取り組まれている情報共有の方法や困られていることを教えてください。

(外部との連携)

研修動画をご覧になった方へアンケートをお願いしています。・メールアドレス

・受講者の方の勤務年数をお教えてください。

○初任 ○2～5年目 ○6～10年目 ○11～20年目 ○21年目以上 ○退職して再任用である○休職中または退職している ○教諭ではない

・校種をお教えてください。

○幼稚園・保育園○小学校○中学校○高等学校○大学○特別支援学校

(研修内容について)

1.本動画を見たきっかけはなんですか。

○公的な研修の一環として○知人の紹介○京都教育大学附属桃山小学校のHPから○Udemyから
○YouTubeから○京都教育大学附属桃山小学校のセミナーから
○その他

2.本動画を見て、働き方の参考になる内容がありましたか。なかった○1
○2○3○4あった

3.自分の働き方を見直すきっかけになりましたか。ならなかった○1 ○2○3○4なった

4.本動画を見て、さらに研修・研鑽を積んでいきたいという気持ちが高まりましたか。変わらない○1 ○2○3○4高まった

5.これまでの働き方を変えたいという気持ちが高まりましたか。変わらない○1
○2○3○4高まった

6.研修を受けて、やるべきことが明確になりましたか。ならなかった○1 ○2○3○4なった

7.さらに知りたい内容はありますか。自由にお書きください。

動画内容に関連した質問

ご記入いただける内容のみでも構いません。ご協力をお願いします。

- ①保護者連携で、欠席連絡や時間割伝達など、簡単にできればいいと思うことはありますか。
- ②保護者との連携で実際にやっている工夫はありますか。
- ③地域連携をとっていくとしたら、どのような職種の方と子どもたちを出会わせたいと考えますか。
- ④先生ご自身や、学校として、地域とのつながりをもつために、している工夫、した方がよい工夫がありましたら、教えてください。
- ⑤調べたデジタルコンテンツ・デジタルミュージアムのリンクを1つ以上貼ってください。
- ⑥そのコンテンツをどのように活用しようと考えていますか。